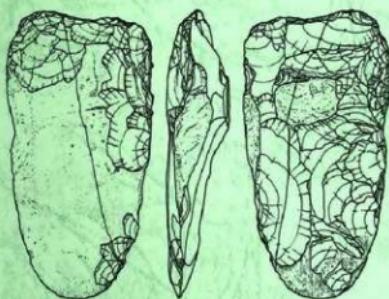


信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

うえ の はら ひがし うら うら の やま
上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡

—帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業に伴う発掘調査報告書—



2007

信濃町教育委員会

信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

うえ の はら ひがしうら うら の やま
上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡

—帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業に伴う発掘調査報告書—

2007

信濃町教育委員会

例　　言

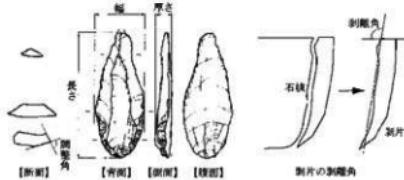
- 本書は平成9年度に実施した長野県上水内郡信濃町大字柏原に所在する上ノ原遺跡、東裏遺跡、裏ノ山遺跡の発掘調査の内容を記録した報告書である。
- 発掘調査は帝國石油株式会社による天然ガスパイプライン（新東京ライン）敷設工事に伴い、信濃町教育委員会が帝國石油株式会社新東京ライン建設部から受託して実施した。
- 本書の執筆、編集は渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
- 本調査の出土遺物と調査及び整理作業に係る資料はすべて信濃町教育委員会が保管・管理している。遺物の注記記号は上ノ原遺跡「97UH(6)」、東裏遺跡が「97HU(T)」、裏ノ山遺跡が「97UY」である。
- 石器石材については一部を中村由克氏（野尻湖ナウマンゾウ博物館）から鑑定していただいた。
- 調査にあたり、帝國石油株式会社及び新日本製鉄株式会社には多大なるご協力をいただいた。感謝申し上げる次第である。

凡　　例

- 出土した石器については器種名及び石材名に対し略号を用いた。本文中に用いた略号は以下の通りである。

略号	器種	略号	器種	略号	器種	略号	器種	略号	器種
Kn	ナイフ形石器	ES	搔器	Sc	削器	Gr	彫器	RF	二次加工のある剥片
MC	細石刃核	Co	石核	AF	局部磨製石斧	Ax	斧形石器	Fl	剥片
AH	石礫	PS	凹石	GS	磨石				
略号	石材	略号	石材	略号	石材	略号	石材	略号	石材
Ch	チャート	An	無斑品質安山岩	Tu	凝灰岩	Ob	黒曜石	Rh	流紋岩
TS	凝灰質頁岩	Ag	玉髓	Se	蛇紋岩	GT	緑色凝灰岩	And	安山岩

- 石器の計測は右の図のようにおこなった。
また、石器を説明する際に用いる用語について
ても右の図に準じている。
- 発掘時に移植ゴテ等により付けてしまった
新しい剥離面（ガジリ）の部分は、実測図では黒く塗りつぶして表現した。



目　　次

I 調査の概要	1	III 東裏遺跡（帝石パイプライン地点）	22
1. 調査に至る経緯	1	1. 調査の概要	22
2. 調査体制と調査期間	2	2. 出土層位と遺物の分布	26
3. 遺跡周辺の環境	2	3. 遺物	26
4. 調査の方法	4	IV 裏ノ山遺跡（帝石パイプライン地点）	26
5. 基本層序	4	1. 調査の概要	26
II 上ノ原遺跡（帝石パイプライン地点）	5	2. 出土層位と遺物の分布	27
1. 調査の概要	5	3. 遺物	27
2. 旧石器時代	6	V まとめ	28
3. 繩文時代以降	18	写真図版	34

I 調査の概要

1. 調査に至る経緯

本調査は帝國石油株式会社による天然ガスパイプライン（新東京ライン）敷設工事に伴いおこなったものである。帝国石油株式会社は1962（昭和37）年に新潟県内で産出する天然ガスを公益事業者である都市ガス事業者に對し、原料卸供給を目的で管径300mm、延長304kmの東京ラインを敷設し、以来、沿線の新潟、長野、群馬、栃木、埼玉の都市ガス事業者を通じ、一般家庭を中心約40万戸へ天然ガスの供給をおこなってきた。しかし、ガスの需要が増える中、送ガス能力が限界に達したために、新たに管径500mmのパイプライン（新東京ライン）を敷設することになった。その第一期工事として、新潟県頸城村（現在は上越市）の頸城圧力調整所から信濃町柏原の既設東京ライン柏原遮断バルブ付近に接続し、信濃町富農までの延長約55kmを平成9年末までに完成させたいということであった。

この新東京ラインは建設中の上信越自動車道に沿って敷設される計画であったため、上信越自動車道建設に伴い実施された長野県埋蔵文化財センター（以下、県埋文センターと記述する）による発掘調査の状況から判断して、調査対象となる遺跡とその面積を割り出し、開発側の工事計画との調整をして、調査の時期と期間を決めた。

信濃町においてこの工事によって調査が必要な遺跡は北から星光山莊遺跡、貫ノ木遺跡、上ノ原遺跡、東裏遺跡、裏ノ山遺跡である。この内、本書は上ノ原遺跡、東裏遺跡、裏ノ山遺跡について報告する。新東京ラインの敷設ルート及び、本報告書で扱う遺跡の位置は図1に示した。図1の遺跡のポイント（点の位置）は今回の調査範囲のほぼ中央を示している。

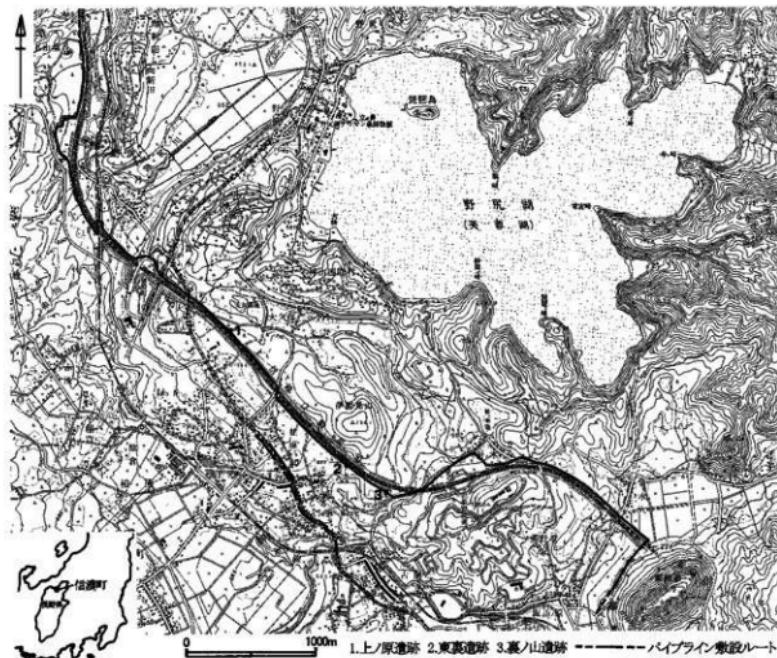


図1 調査地の位置（信濃町役場平成15年12月製作1/25,000地形図を使用）

2. 調査体制と調査期間

発掘調査は平成9年度に実施し、出土遺物の水洗、注記などの遺物整理を同年度におこなった。報告書作成については平成18年度におこなった。調査体制及び調査期間は以下の通りである。

A. 発掘調査

事務局	信濃町教育委員会	教育長	小林豊雄
		総務教育課長	北村敦博
		総務教育係長	北村恭一
		総務教育係	中村由克（野尻湖ナウマンゾウ博物館学芸員）
		総務教育係	渡辺哲也
		総務教育係	池田昭博

【上ノ原遺跡】

調査期間：平成9年6月21日～同年9月2日

調査面積：720m²

調査担当：中村由克

調査参加者：麻田紀子、池田か己子、石田和子、今井美枝子、大久保孝子、荻原敬藏、落合春人、小日向キヨ子、片山トヨ、金子シズイ、金子房江、木下絹栄、木下浩一、木村キミ子、小林栄子、小林節子、小林正義、駒村幸男、佐藤清子、佐藤ユキ子、佐藤儀信、洪沢ユキ子、高野孝司、高橋は清、竹内長子、竹内百合子、竹内ゆき子、中村昭子、中村漁江、東貢、平塚せつ子、深沢政雄、巻柄恵子、松岡さとみ、松木由美子、宮川あさ子、山田啓子、横山真理子、吉川栄子

【東裏遺跡・裏ノ山遺跡】

調査期間：平成9年5月6日～同年6月27日

調査面積：159m²

調査担当：渡辺哲也

調査参加者：青柳アリ、荒井時子、石田尋子、小日向キヨ子、小林ヨシエ、佐藤チエ子、菅谷澄子、玉井真生、中村栄子、藤田桂子、藤本君男、藤本正明、湯井京子

B. 整理作業

実施期間：平成9年12月10日～平成10年3月31日

担当者：中村由克、渡辺哲也

整理参加者（遺物整理）：青柳成子、池田か己子、今井美枝子、小日向キヨ子、北村フク子、佐藤美佐江、佐藤道子、佐藤ユミ子、菅谷澄子、長谷川悦子、万場弘美、藤田桂子、松岡さとみ、湯井京子、横山真理子

C. 報告書作成事業

事務局	信濃町教育委員会	教育長	小林豊雄
		教育次長	静谷一男
		生涯学習係長	丸山茂幸
		生涯学習係	渡辺哲也

実施期間：平成18年6月10日～平成19年3月31日

担当者：渡辺哲也

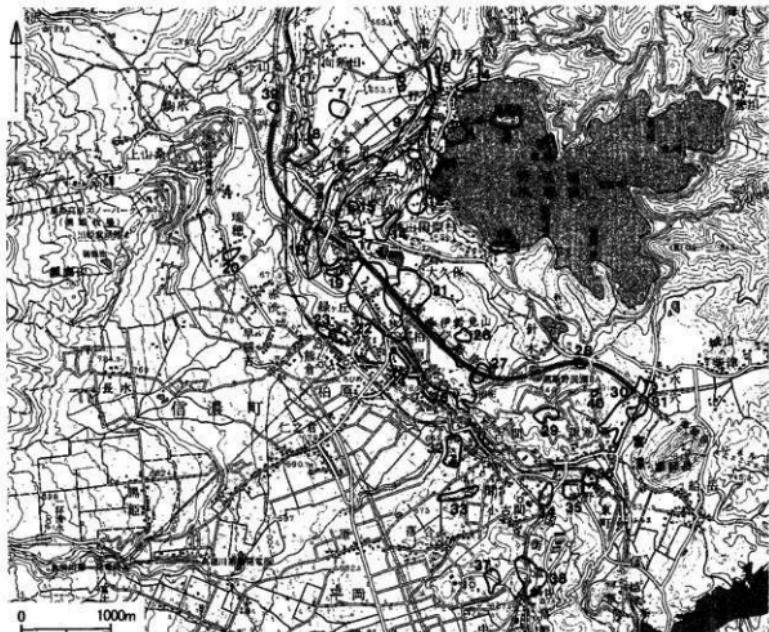
整理参加者（報告書作成）：篠崎和美、藤田桂子

3. 遺跡周辺の環境

A. 地理的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。町域は東西方向に概ね3つの地形に分かれられる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の堆積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中にあり、およそ7万年前にその原形ができたとされる。西部は第四紀中・後期更新世の飯綱山、黒姫山の火山地形が占める。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などになっている。

野尻湖を水源とする池尻川は関川水系に属し、北方へと流下する。一方、長野市戸懸を水源とする鳥居川は千曲川（信濃川）水系に属し、南東方向へ流下する。この二つの水系の分水嶺は柏原地区に位置し、その辺りはなだらかな高原状の地形となっている。こうした平坦な地形は内陸部と日本海側をつなぐルートとして古くから利用されてきたものと考えられる。



No.	遺跡名	過去の調査記録
1	立が鼻	(1962-1963・1964-1965・1972-1973・1978-1981・1984-1987-1990)
2	琵琶島	(1990-1997-2000-2003-2006野川湖跡(野))
3	蟹ヶ崎	
4	杉久保	(1962-1965野尻湖跡(野))、(1968)水場(野)、(1980-1-8月)(野)
5	川久保	(1999-2000)山道18号野尻湖ハイバス(野)、2001-2002下水道(河)
6	小丸山	
7	向新田	(1982-1985上野先駆跡)
8	清美台	(2006個人住宅(河))
9	仲町	(1970-1973・1982-1981・1984-1988上野先駆跡(野))、(1977)水道(河)、(1994-2001)下水道(河)、(1999個人住宅(河))、(2001-2002)国道18号野尻湖ハイバス(河)、(2005)底塗(河)、(2001個人住宅(河))
10	神山北	(1992)武蔵御岳(野)
11	海瀬	(1992)ト木原(野)、(1997個人住宅(河))
12	利久保	(1967系塗(河))、(2002-2006個人住宅(河))
13	砂間	
14	神山A	
15	神山C	
16	照月台	(1985上野先駆跡(野))、(1997)走跡(河)、(1999)18号野尻湖ハイバス(河)
17	賀ノ木	(1985-1988上野先駆跡(野))、(1991-1992)各差塗(河)
18	西岡A	(1994-1995上野先駆跡(河))、(1994)道18号野尻湖ハイバス(河)
19	西岡B	(1993)高通道代替地造成(河)、(1995)底塗(アント(河))
20	瑞穂A	
21	大久保南	(1985上野先駆跡(野))、(1985-1986)水道(河)、(1995上野先駆跡(河))、(1998個人住宅(河))

No.	遺跡名	過去の調査記録
22	上ノ原	(1992)野橋(河)、(1993)水道(河)、(1994-1995上野先駆跡(河))、(1995)治陸(個人住宅(河))、(1996)治陸(個人住宅(河))、(1998-1999)水道(河)、(1999父谷塗(河))、(1999)底塗(アント(河))、(1998-1999)水道(河)、(1999)18号野尻湖ハイバス(河)、(1999)水道(河)、(2000)研究室(河)、(2006)下水道(河))
23	鶴ヶ丘	
24	小丸山公園	(1992)町道(河)、(1992-1993)特許業者塗(個人住宅(河))、(1995)宅地造成(河))
25	東裏	(1993-1994)上付壁(個人住宅(河))、(1994)町道(河)、(1995)築堤(河))
26	伊勢見山	(1992)宇都木塗(河)、(1993)水道(河)、(1994)水道(河)、(1995)水道(河)、(1996)宇都木塗(河)、(1997)宇都木塗(河)、(1998)宇都木塗(河)、(1999)宇都木塗(河)、(2000)宇都木塗(河))
27	裏ノ山	(1994-1995)上付壁(個人住宅(河))、(1995)スキー場(河))
28	太平山	(1994-1995)上付壁(個人住宅(河))
29	太平A	
30	日向林	(1994)個人住宅(河))、(1995-1996)上付壁(個人住宅(河))
31	七ヶ原	(1991-1992)18号野尻湖水道(河)、(1994)水道(河)、(1996)底塗(河))
32	朝原	(2006)学校(河))
33	黒塗A	
34	清水裏	
35	吹野原A	(1986-1997-1999-2000)底塗(河)、(1997-1998)18号野尻湖水道(河))
36	吹野原B	
37	丸谷地	(1989-1990)町道(河)、(1991)資料(塗塗(河))、(1996)18号野尻湖水道(河))
38	大通下	(1989)町道(河)、(1990)18号野尻湖水道(河)、(1991)18号野尻湖水道(河))
39	豊光山丘	(1995-1996)18号野尻湖水道(河))
40	大平C	

※調査者の略号(河)→野尻湖考古調査団、(河)→信濃町教育委員会、(風)→長野県埋蔵文化財センター

図2 野尻湖遺跡群の遺跡と過去の調査

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的涼やかで、避暑地として利用されている。

B. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであったと推測できる。野尻湖の西側の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場遺跡（キルサイト）と考えられており、ここがゾウの通り道であったことがうかがえる。国内有数の後期旧石器時代の遺跡が集中する地域であることからも、遊動する旧石器人にとって交通の要所であったことは明らかである。野尻湖の西岸から南西側に連なる丘陵上に、旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡が密に分布しており、野尻湖遺跡群と呼ばれている（野尻湖人類考古グループ 1994）。野尻湖遺跡群を構成する遺跡とそこで平成18年度までにおこなわれた発掘調査については図2に示したが、これらの遺跡はそれぞれ範囲が広いという特徴をもっている。これは丘陵の平坦地および緩傾斜地にはほとんど途切れることなく遺物が広く分布する状況があるためで、遺跡の数が多いということだけでなく、その密度が高いということ点も野尻湖遺跡群の特徴と言えよう。

さらに古代では東山道支道が通っていたと推定され、また、江戸時代には北国街道が整備された。関川を境として信濃と越後の国境がわいたため、こうした歴史的な地理的条件も備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られているが、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増える。

4. 調査の方法

A. 調査

ガスパイプラインの敷設場所はそのほとんどが上信越自動車道に沿っていたため、県埋文センターによる発掘調査の結果を参考にし、遺物が多く出土した地点の周辺では特に注意を払って調査した。東裏遺跡、裏ノ山遺跡は試掘調査を実施し、遺物が出土した地点を中心に周辺を広げた。発掘は移植ゴテおよび草かき鎌によって手掘りでおこない、遺物が出土しなくなる地層まで掘り下げた。遺物の位置の測定は測量業者に委託し、光波トランシットによる単点測量をおこない、位置及び標高のデータを記録した。その際には遺物番号とともに遺物の種別と出土層位のデータを記録した。また、発掘調査範囲についても測量業者に位置の記録を依頼した。

B. 調査の位置とグリッドの設定

調査位置は測量業者による測量によって国家座標上に示すことができた。また、上ノ原遺跡については県埋文センターの調査位置との関係が容易に把握できるように、県埋文センターによる上信越自動車道の調査用に設定されたグリッドを用いた。

5. 基本層序

ここで扱う3遺跡の土層は野尻湖発掘調査団（野尻湖地質グループ 1990）による野尻湖周辺の風成の層序で示された土層とほぼ同じことが確認できたので、その区分に従い、上の層からローマ数字をついた。I層は表土、II層は柏原黒色火山灰層、III層はモヤ、IV層は上部II（上部野尻ローム層IIの略）上部～下部、V層は上部II最下部、VI層は黒色帶、VII層は上部I（上部野尻ローム層Iの略）、VIII層は中部III（中部野尻ローム層IIIの略）である。上II最下部には「ヌカI」とよばれる火山灰が含まれ、これが広域火山灰である姶良丹沢火山灰（AT）に対比されている（野尻湖火山灰グループ 1993）。層序と包含される遺物については、概ね、II層に縄文時代早期以降、III層に後期旧石器時代細石器文化と縄文時代草創期、上II上部～黒色帯に後期旧石器時代の遺物が出土する関係にある（野尻湖人類考古グループ 1987）。調査地はバイオライン敷設という工事の性格上、調査範

I
II - IIa
IIb
III - IIIa
IIIb
IVa
IVb
IVc
V - Va
Vb
VI - VIa
VIb
VIc
VII
VIII

I:表土	IV:上部II上部～下部	Vb:上部II最下部
II:柏原黒色火山灰層	黄褐色土 粘性あり、しまりあり	暗褐色土 粘性あり、しまりあり
IIb:	黒褐色土 粘性なし、しまりあり	IVa:上部II上部
III:柏原黒色火山灰層	黄褐色土 粘性あり、しまりあり	IVa:上部II上部
IIIb:	黒褐色土 粘性なし、しまりなし	IVb:上部II中部
IVa:	黄褐色土 粘性あり、しまりなし	IVb:上部II下部
IVb:	黄褐色土 粘性なし、しまりあり	IVc:上部II下部
IVc:	黄褐色土 粘性あり、しまりあり	V:上部II最下部
V:モヤ	黄褐色土 粘性あり、しまりあり	V:上部II最下部
Va:	黒褐色土 粘性ややあり	Va:上部II最下部
Vb:	黒褐色土 粘性ややあり	Vb:上部II最下部
VI:モヤ	暗褐色土 粘性あり、しまりあり	Va:上部II最下部
VIa:	黒褐色土 粘性ややあり	Vb:上部II最下部
VIb:	暗褐色土 粘性あり、しまりあり	Vb:上部II最下部
VIc:	暗褐色土 粘性ややあり	Vc:上部II最下部
VII:	暗褐色土 粘性ややあり	Vc:上部II最下部
VIII:	暗褐色土 粘性ややあり	Vd:上部II最下部

図3 基本土層

層が細長く、地形の起伏が大きいところを通過しているため、地層の厚さが地点により大きく異なっている。そのため、地層が厚くて色の違いなどにより細分できるところは細分し、小文字のアルファベットを付けた。このようにして分層した基本層序が図3である。遺物はⅡ層からⅩ層まで出土している。

II 上ノ原遺跡（帝石パイプライン地点）

1. 調査の概要

上ノ原遺跡は野尻湖の南西1.3kmの丘陵上に位置する遺跡で、北西南東方向に1kmにわたって広がっている。この遺跡内では平成2年度に北部高校信濃町分校跡地で発掘調査がおこなわれ、旧石器時代細石器文化の石器群が検出されている（中村 1992a、1992b）。これが上ノ原遺跡第1次調査である。平成5年に町道建設に伴う発掘調査がおこなわれ（第2次調査）、旧石器時代尖頭器文化の石器群が検出されている（中村・中村 1994）。平成7年に店舗兼住宅建設に伴う調査（第3次調査）、個人住宅建設に伴う調査（第4次調査）、平成8年～10年にかけては町道建設に伴う調査（第5次調査）がおこなわれており、この帝国石油パイプライン敷設工事に伴う発掘調査は第6次調査に位置づけられている。そのため遺物の注記は97UH(6)とした。上信越自動車道建設に伴って県埋文センターによって発掘調査がおこなわれたのは平成6年、7年の2ヵ年である（長野県埋蔵文化財センター 2000）。これら他の調査と区別するため、今回調査した範囲は帝石パイプライン地点と称することとする。今回調査範囲は図4に示したように上信越自動車道の東側に道路に沿って敷設するというもので、県埋文センターで調査した遺跡の続きの調査とも言えるものである。今回の調査では平均幅3m弱で延長約340m、面積720m²を調査し、595点の遺物を得た。遺物の内訳は石器が508点、礫が62点、縄文土器が3点、縄文時代の石器8点、須恵器・土師器14点である。全ての遺物のデータは表5、6及び表10～13に掲載した。なお、グリッドは県埋文センターで実施した上ノ原遺跡の発掘調査に準じており、一辺が40mとなっている（図5）。

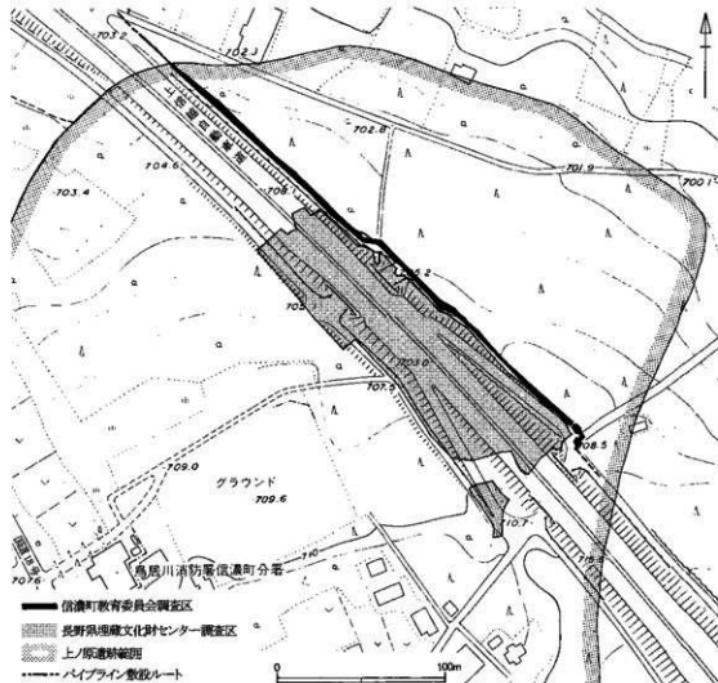


図4 上ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

2. 旧石器時代

A. 出土層位と遺物の分布

調査地の上層柱状図は図6に示した。町内でこれまでに発掘調査をおこなった他の旧石器時代の遺跡と比較してそれぞれの層が深い印象である。II層は他の層に比して厚いがIII層以下は薄く、特にIVGグリッド周辺（図7 遺物分布6の周辺）では非常に薄い。このことから、地層間の遺物の移動が多くあることが予想され、遺跡が残された本來の面（生活面）の認定には出土状況や遺物群の状況など総合的に踏まえて決定する必要があると思われる。出土遺物の所属時期については、Dで述べる。

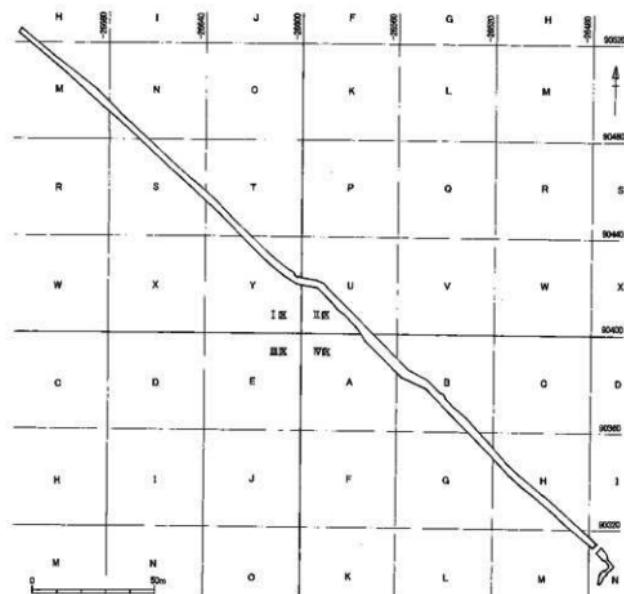


図5 上ノ原遺跡の調査範囲とグリッド設定図

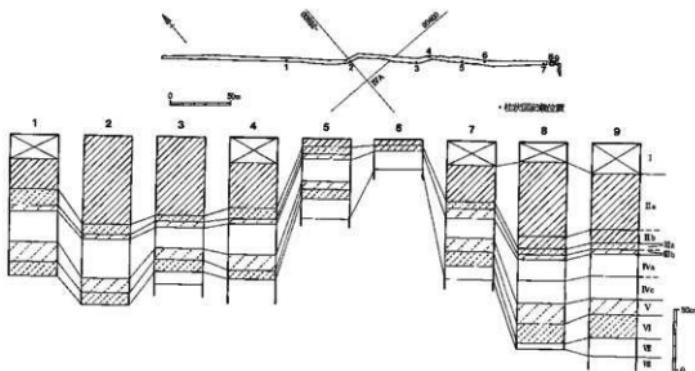


図6 上ノ原遺跡の十層

調査地全体の遺物の分布は図7で示した。西側のおよそ120mにはほとんど遺物は分布せず、また、地層が薄くなるIVG、IVHグリッドは遺物の分布が少ない。遺物の集中する地点がいくつかあるが、発掘区の幅が狭く、遺物集中の範囲を捉えきれていない状況から、ブロックの認定はおこなわず、遺物の分布状況のみを示すことにした（図8～15）。なお、図8の凡例は図15まで適用される。

遺物分布1の地点では出土した石器はわずかである。遺物分布2の地点では遺物の点数は少いものの、局部磨製石斧と無斑晶質安山岩製の大型の石器が出土した。遺物分布3の地点では局部磨製石斧と縦長剥片のまとまりが見られた。また、大型で扁平な礫（石圓状礫）がV層から出土した。遺物分布4の地点ではナイフ形石器と縦長剥片が出土した。遺物分布5の地点は今回の調査でもっとも遺物が集中し、石器や剥片のはか石核が多く出土した。石器製作の場であった可能性がうかがえる。遺物分布6の地点では細石刃核1点と大型の石核、大型の剥片が出土した。遺物分布7の地点では流紋岩製の剥片のまとまりが見られ、分布図8の地点では大型の石器類

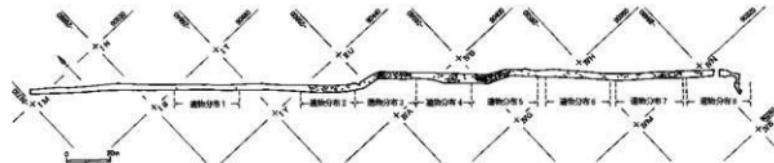


図7 上ノ原遺跡の遺物分布（全体）

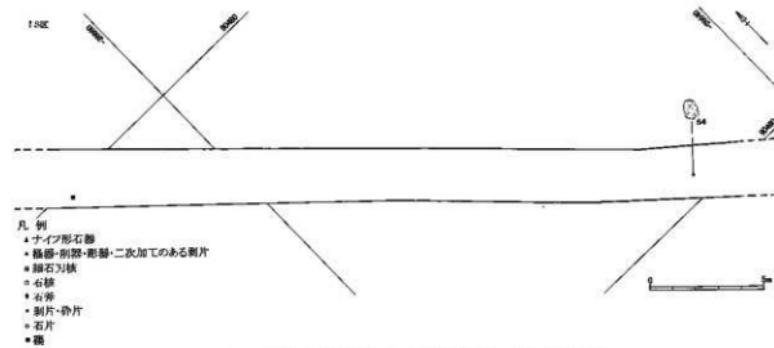


図8 上ノ原遺跡の遺物分布1（凡例は図8～15に共通する）

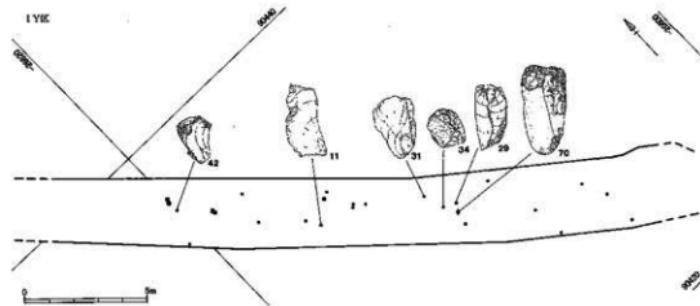


図9 上ノ原遺跡の遺物分布2

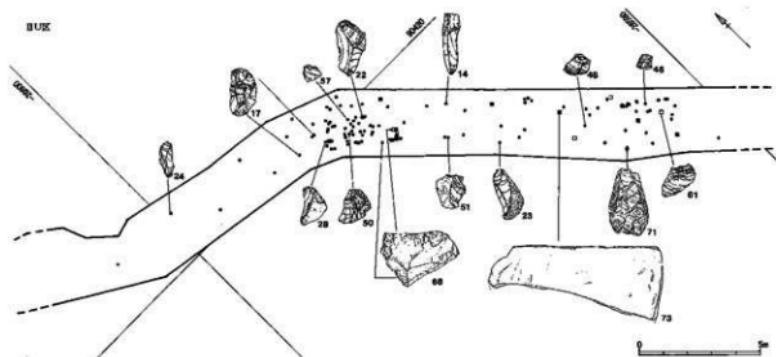


図10 上ノ原遺跡の遺物分布3

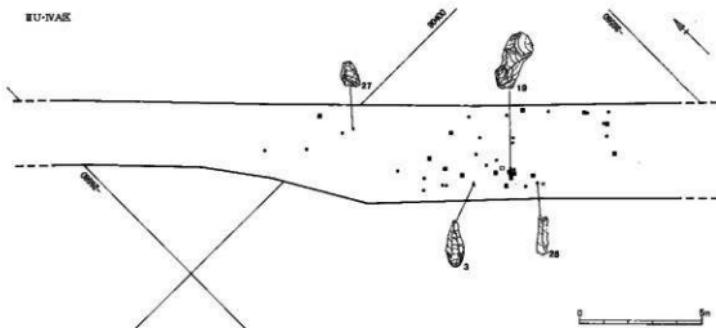


図11 上ノ原遺跡の遺物分布4

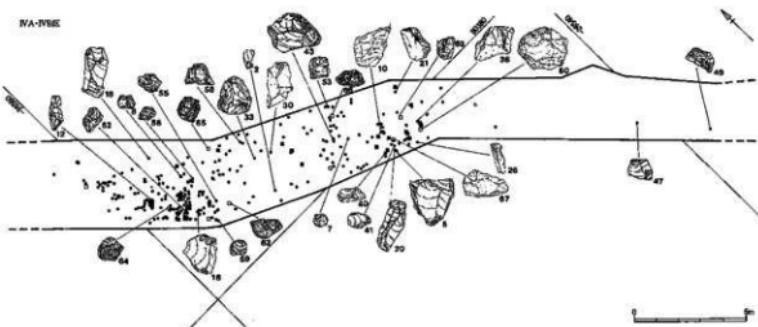


図12 上ノ原遺跡の遺物分布5

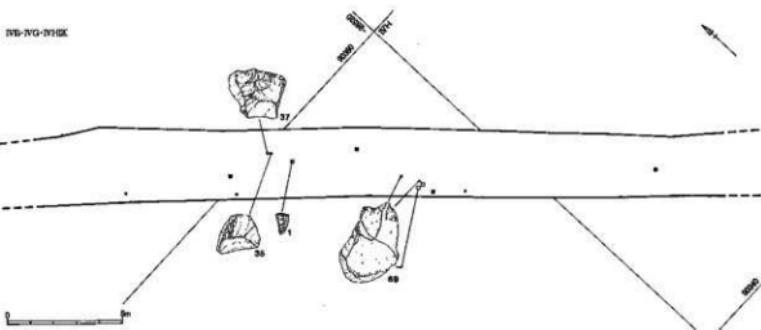


図13 上ノ原遺跡の遺物分布 6

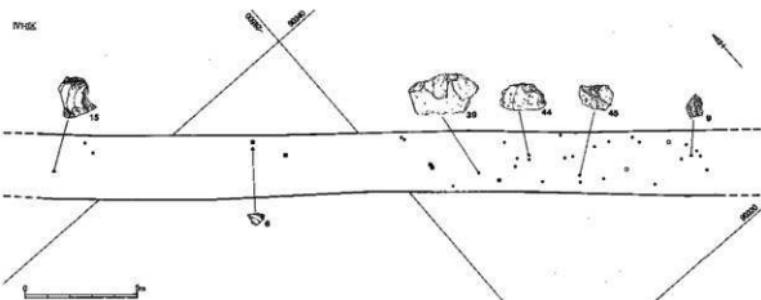


図14 上ノ原遺跡の遺物分布 7

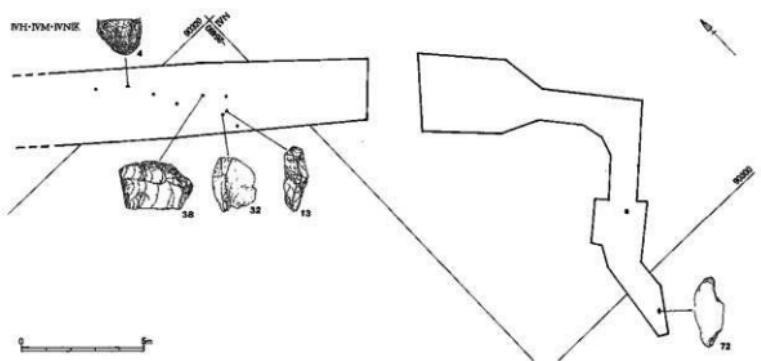


図15 上ノ原遺跡の遺物分布 8

が出土した。

B. 出土遺物のデータ分析

剥片石器については縄文時代の石器以外の508点を分析した。グリッドと出土層位との関係は表1に示した。遺物はIVBグリッドで最も多く出土し、次がIIUGグリッドでこの2つのグリッドで全体76.9%を占める。出土層位はIV層全体で46.9%を占め、最も多かった層位はIVa層であった。次がV層で、全体の20%を占める。IV層でV層全体の70%程度まで達していく。このような状況からIVまたはV層の中に生活動があったものと思われる。

表1 確認別石器の出土点数

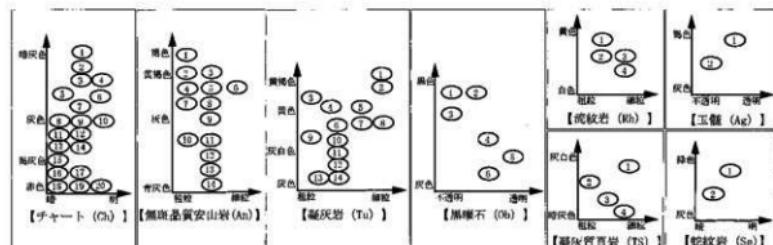


図16 母岩別分類の方法

表2 石材別の石器出土点数及び重量

Se-2点、GT-1点以上石斧 造物不明5点

使用された石器の石材については表2に示した。数量ではチャート(Ch)が最も多く、次が無斑晶質安山岩(An)で、重量比では無斑晶質安山岩、凝灰岩(Tu)の順であった。無斑晶質安山岩は全体の半数近い重量を占めている。無斑晶質安山岩、チャートを主要石材として用い、凝灰岩、黒曜石、流紋岩などを用いている状況がうかがえる。なお、それぞれの石材については、肉眼の観察により母岩別分類を試みた。石材により色や粒度などの特徴を縦軸と横軸にとってその位置を決めて分類し、色の記述は土色般に従い、図16に示した。出土石器の全てについてこの分類を行い、表10~12に示した。

礫は62点出土したが、出土地点と出土層位とともに散漫であり、礫群としては捉えなかった。礫は表13に示したように焼けている割合、割れている割合が高く、割れ面が焼けている礫が多いことからも、割れた礫を再利用していることがうかがわれ、調理等に使われた礫と推測できる。素材は安山岩の円礫で、地元の川原の石を用いているものと思われる。

C. 出土遺物

遺物の総出土点数595点の内、旧石器時代の遺物としたものは570点である。遺物はII層からVI層まで出土しているが、石器形態や剥片剥離技術、石材等について比較をおこなった結果、地層の違いによる遺物のかたよりが見られないことから、細石器文化の遺物(図17の1、2)を除き、旧石器時代のある一時期の遺物として一括して扱うこととした。以下に示す数字は図17~23と表3~4に示した通し番号である。1、2は旧石器時代の細石器文化の石器と思われ、3以降の遺物とは時期が異なると思われる。1は円錐形の細石刃核である。2は細石刃を多数剥離した痕跡が認められる剥片で、表裏で剥離方向が180度異なっている。3は唯一のナイフ形石器で両側縁に基部加工が施されている。4~8は搔器である。4、5はいずれも大規模の剥片を素材とするが、4は平坦剥離を多用し、石斧状の加工が見られるが、5は両側縁に沿って連続した剥離で刃部の加工を施している。6は90度前後の急角度の剥離が施されている。7、8は幅広の剥片の末端部に刃部が設けられている。9は削器で、素材の剥片の一側縁に刃部加工を施している。先端を尖らせる加工も見られることから、ナイフ形石器の可能性も考えておきたい。10、11は彫器で、いずれも素材の一端の平坦面を加壓して、彫刃面をつくり出している。12~16は二次加工のある剥片である。12~14は石刃状の縦長剥片末端部の一部に急角度の剥離によって二次加工Tが施されている。15、16は剥片の一部の狭い範囲に二次加工が施されている。17~59は剥片で、刃こぼれ状の微細剥離痕が見られるものも含んでいる。17~28は縦長の剥片で、打面は單剥離面打面のものが多く、打面調整はほとんどおこなわれていないものと思われる。剥離角は110度前後である。29~41は無斑晶質安山岩製の剥片である。29~34は比較的大型の縦長の剥片である。35、36は幅広の剥片、37~39は大型の横長の剥片で、38には微細な剥離痕が見られる。40、41は小型の横長の剥片で、底面を持つことから板状の剥片を石核として用いて剥離された可能性がある。42~59は打面が残る剥片を中心に、石材別に図示した。石刃は含まれず、幅広か横長の剥片が多く、打面の状況から打面調整がほとんどおこなわれていないことがわかる。60~69は石核である。60は凝灰岩製で小型の幅広な剥片を剥離している。61~66はチャート製である。自然面の状況から雛鶏からゴルフボール程度の転石を素材として、平坦剥離によって打面をつくり出し、小剣の剥片を剥離しているものと思われる。67~69は無斑晶質安山岩製で、67は剥片を素材として小型の剥片を剥離している。68は2点が接合したものであるが、大型の剥片を剥離した後に折れている。69は3点の接合資料である。大型の石核として剥片剥離をおこなった後、3つに分割されたが、分割後は石核として利用されず、廃棄されたものと思われる。70~72は斧形石器で、70、71は刃部が研磨されていることから、特に局部磨製石斧と言えるものである。70は緑色凝灰岩、71、72は蛇紋岩を用いている。70は柄の方が広くなるが、71は刃部の方が広く、形態的に異なっている。72は二次加工が少なく、製作途中で廃棄された可能性がある。扁平な大型の礫が1点出土し、石皿状礫(73)とした。厚さが一定であるが特に加工痕は見られず、焼けた痕跡があることから、他の礫と同様に調理等に用いられたものと思われる。

D. 旧石器時代の位置づけ

以上のような出土遺物の状況から上ノ原遺跡(帝石バイオライン地点)の旧石器時代について特徴をまとめると次のようになる。①細石刃核と局部磨製石斧が出土していることから2時期の遺物が混在する。細石器文化の遺物は2点のみで、ほかはナイフ形石器文化に位置づけられる。②出土層位はII層からVI層まで分散しているが、IV~V層に多数の遺物が含まれている。③ナイフ形石器文化の石器組成はナイフ形石器、搔器、彫器、局部磨製石斧である。石刃は組成しないが、石刃状の縦長剥片が含まれている。④使用石材は無斑晶質安山岩が約半数を占め、次いでチャート、凝灰岩が多用されている。⑤剥片の剥離技術は打面調整をほとんどおこなわず、自然面、または單剥離面を加壓して寸づまりで幅広の剥片を、打面を頻繁に変えて剥離する技術が多くみられる。このような状況からこの石器群の生活面と所属時期を推定すると、まず生活面はV層にあったとしておきたい。地層間の変動が少ないと思われる石皿状礫がV層から出土していることと、後期旧石器時代の前半に位置づけられる局

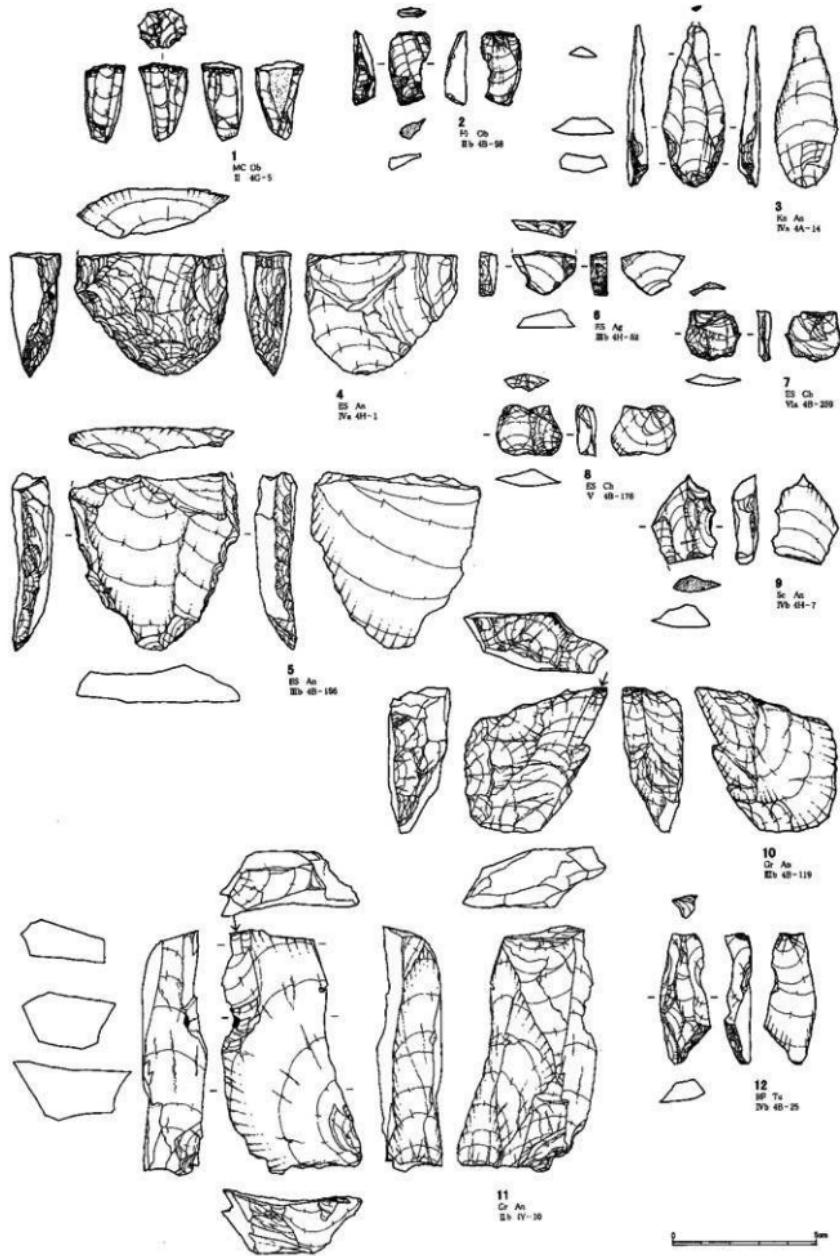


図17 上ノ原遺跡の主な出土遺物(1) (細石刃核、剥片、ナイフ形石器、搔器、削器、彫器、二次加工のある剥片)

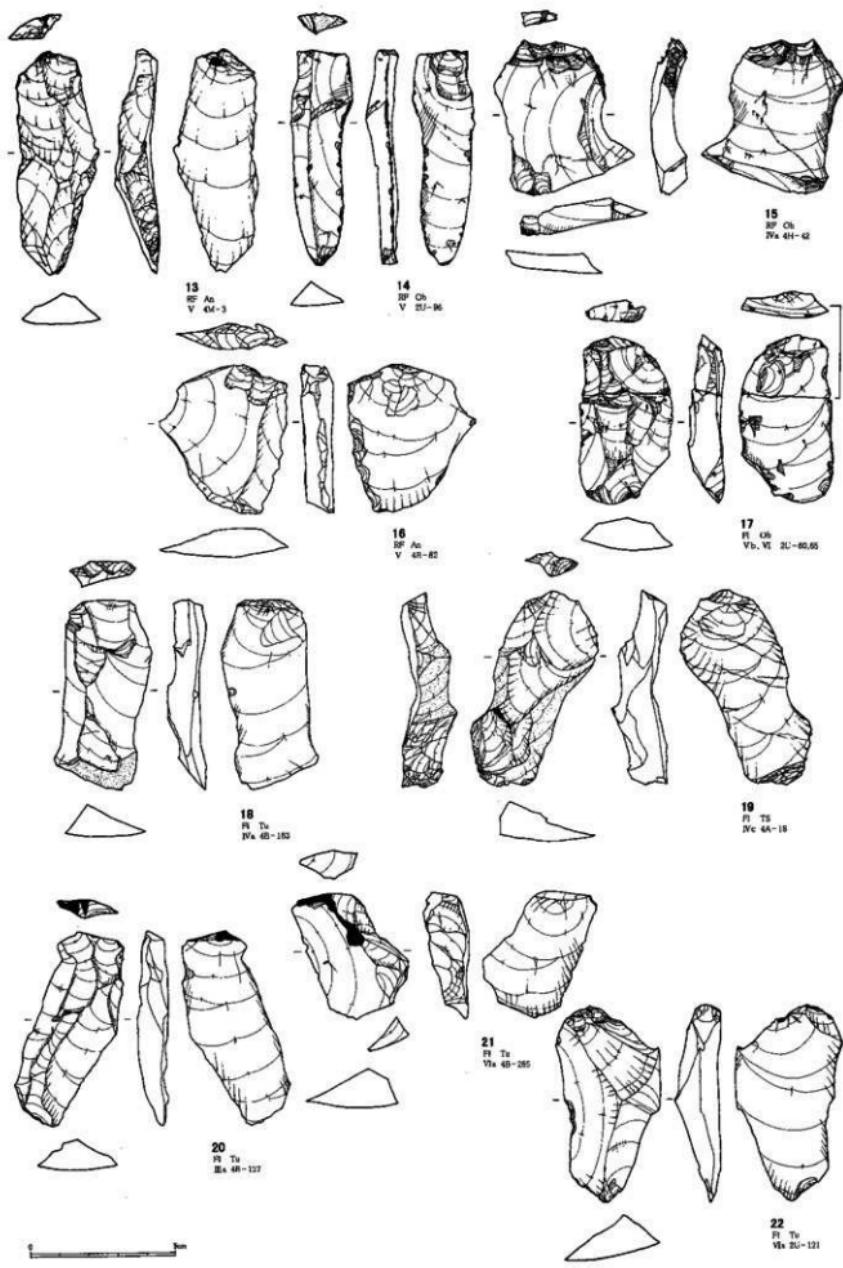


図18 上ノ原遺跡の主な出土遺物(2)（二次加工のある剥片、剝片）

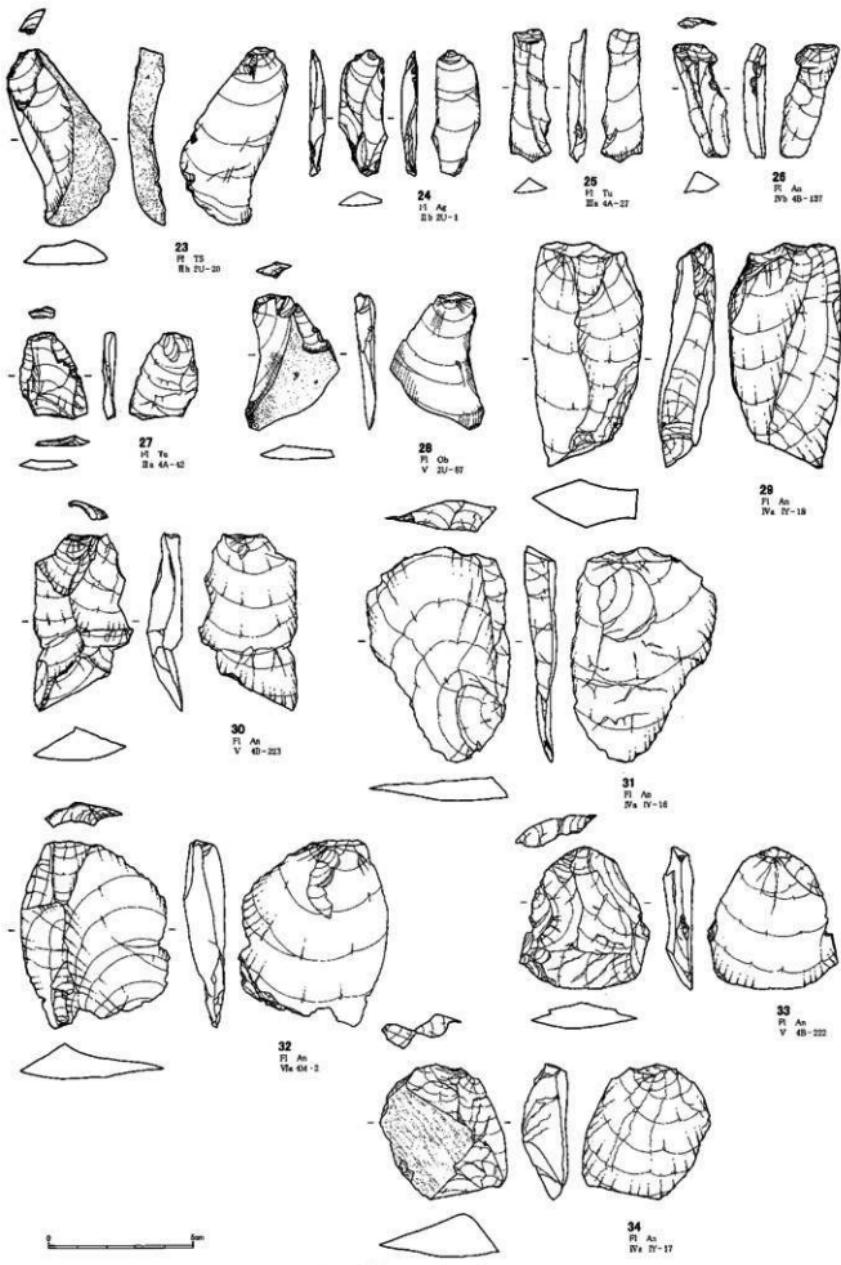


図19 上ノ原遺跡の主な出土遺物(3)(剥片)

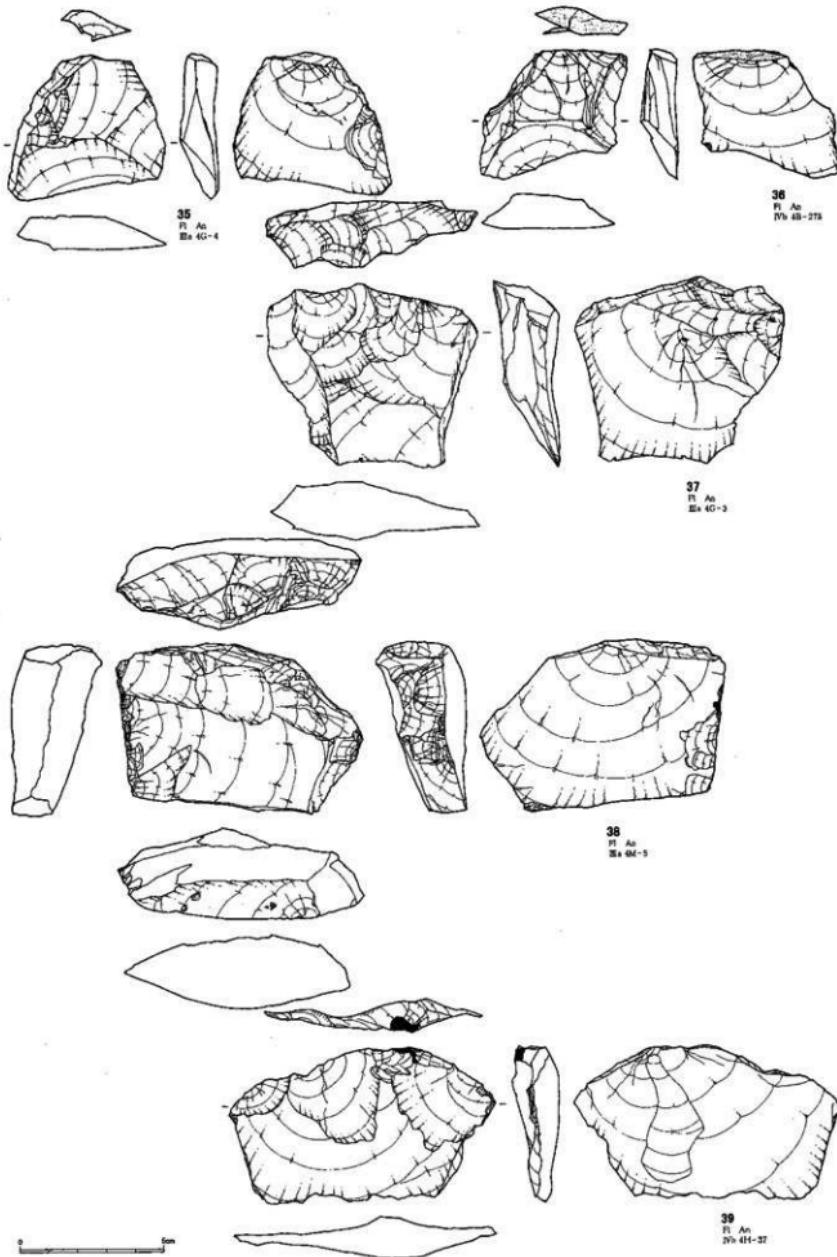


図20 上ノ原遺跡の主な出土遺物(4) (石片)

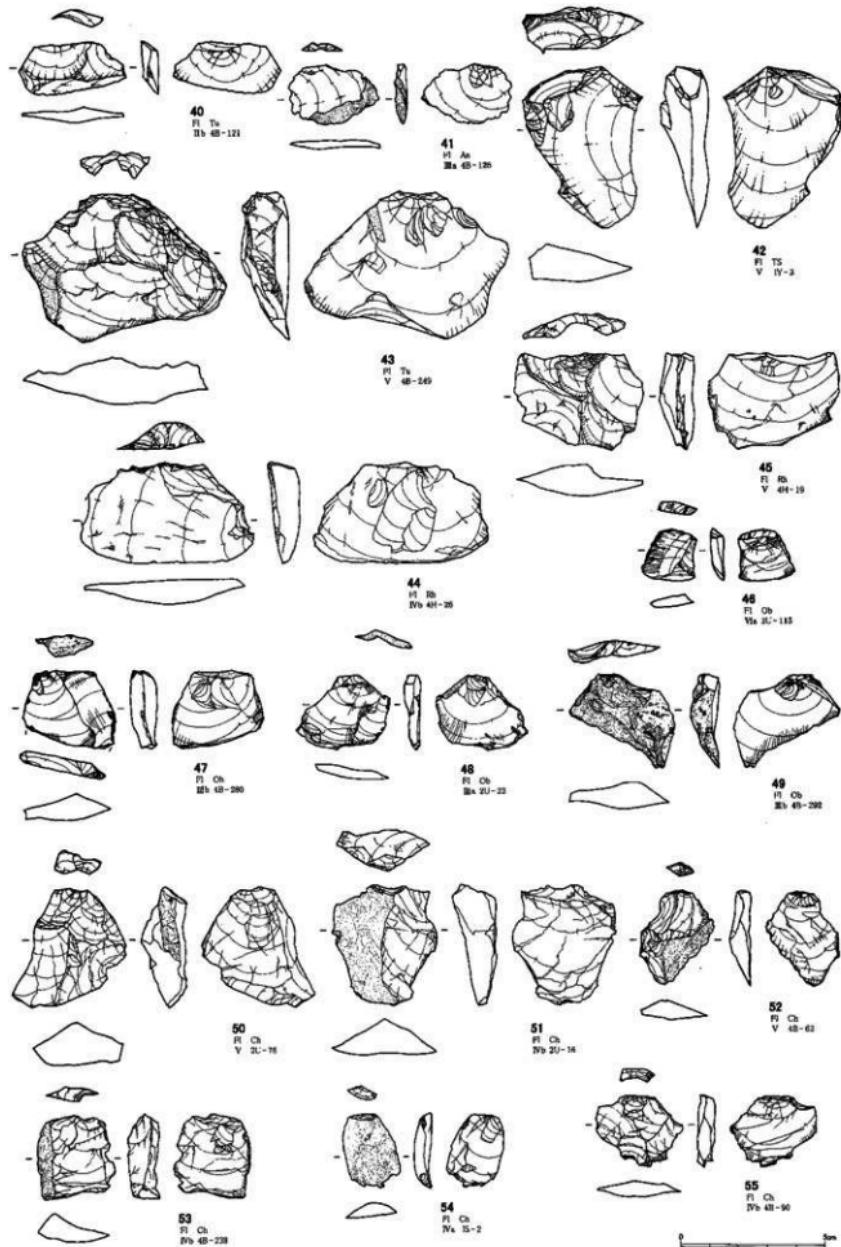


図21 上ノ原遺跡の主な出土遺物(5) (剥片)

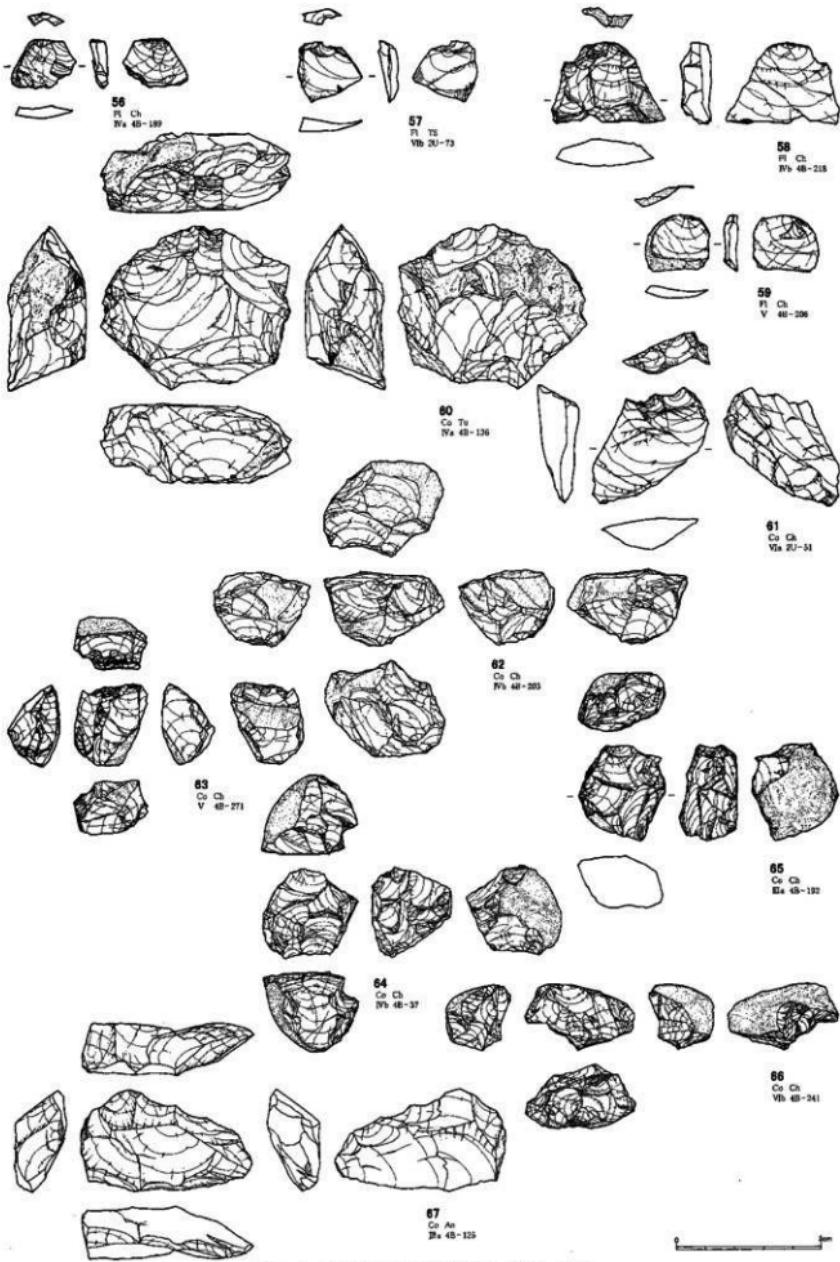


図22 上ノ原遺跡の主な出土遺物(6) (剥片、石核)

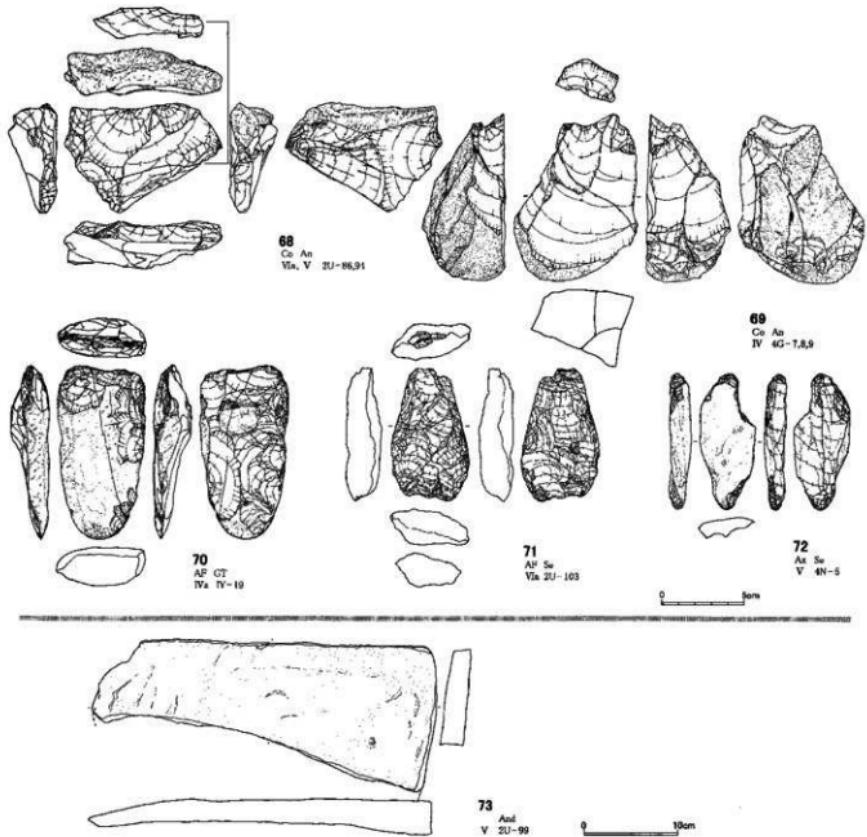


図23 上ノ原遺跡の主な出土遺物(7) (石核、局部磨製石斧、斧形石器、石皿状器)

部磨製石斧が出土しているが、台形様石器が出土していないことなどから判断した。過去に町内で調査された遺跡から類例を求める上、上ノ原I石器文化、大久保南I石器文化、裏ノ山II石器文化（長野県埋蔵文化財センター2000）が挙げられる。上ノ原I石器文化と大久保南I石器文化では、石刃状の縦長剥片を素材として基部の両側線に二次加工を施すナイフ形石器と局部磨製石斧を組成する点では共通するが、台形様石器を組成しない点で異なっている。裏ノ山II石器文化ではナイフ形石器や搔器を組成する点で共通するが、局部磨製石斧を組成する点で異なっている。よって今回出土した石器群の所属時期は、前者よりも新しく、後者の裏ノ山II石器文化に近いものの、局部磨製石斧を組成に残している時期で、AT降灰前の、南関東との対比ではⅦ層階層としておきたい。

3. 繩文時代以降

A. 出土層位と遺物の分布

繩文時代以降の遺物は25点出土した。内訳は繩文土器が3点、須恵器6点、土師器8点、繩文時代の石器8点である。分布は図24に示したが、繩文時代の遺物は散漫に分布し、遺物間の距離も大きいことがわかる。石器は単独出土の状況である。須恵器、土師器はそれぞれ1ヶ所ずつのまとまりが見られた。いずれも遺物の集中度が低く、遺構も検出されなかったことから、この時期の遺跡の縦辺部であると考えられる。

B. 出土遺物

繩文土器は出土した3点の内、図化に耐えられる1点のみを図示した。図25の74は纖維痕が多数見られ、器面

表3 主な出土遺物の観察表(1)

図 面 番 号	遺 物 番 号	遺 物 名	器 種 略 号	石 材 略 号	母 岩	地 層	分 布 図	石器の特徴	
								内 部 構 造	外 部 形 状
14G	5	縫石刃核	MC	Ob	Ob-1	II	6	円錐形の縫石刃核。打面は入念な平坦剝離が施され、打面を固定して縫石器を多数剥離する。	基部は弧を描く。
24B	98	剥片	Fl	Ob	Ob-6	IIb	5	縫石刃が複数剥離された痕跡を残す剥片で、裏面は反対側を打面として、複数の縫石刃を剥離している。打面はいずれも平坦な单面剥離打面で、剥離角は95度前後。	基部加工のナイフ形石器。先端が欠損する。素材は石刃状の縫長剥片で、点打面が残り、剥離角は94度。
34A	14	ナイフ形石器	Kn	An	An-8	IVa	4	大型の縫長剥片を素材とする種器で、素材の打面側は欠損する。刃部は弧を描く。刃部の剥離角は60度～85度。	大型の剥片を素材とした種器。素材の打面側は欠損する。素材の両側面に二次加工で基部をつくり、左右対称に整形。
44H	1	椎器	ES	An	An-13	IVa	8	大型の縫長剥片を素材とする種器で、素材の打面側は欠損する。刃部は弧を描く。刃部の剥離角は60度～85度。	大型の剥片を素材とした種器。素材の打面側は欠損する。素材の両側面に二次加工で基部をつくり、左右対称に整形。
54B	156	椎器	ES	An	An-3	IIIb	5	大型の剥片を素材とした種器。素材の打面側は欠損する。素材の両側面に二次加工で施さないかが見られる。	大型の剥片を素材とした種器。素材の打面側は欠損する。素材の両側面に二次加工で施さないかが見られる。
64H	52	椎器	ES	Ag	Ag-2	IIIb	7	剥片を素材とし、縫辺に急角度の二次加工を施し、弧状の刃部をつくり出している。刃部の剥離角は85～95度。上端部は欠損する。	剥片を素材とし、縫辺に急角度の二次加工を施し、弧状の刃部をつくり出している。刃部の剥離角は85～95度。上端部は欠損する。
74B	259	椎器	ES	Ch	Ch-20	Vla	5	幅広の剥片を素材とし、その末端に82度前後の調整角で二次加工を施し、刃部をつくり出す。素材は自然面打面を加筆し、剥離角103度で剥離されている。	幅広の剥片を素材とし、その末端に82度前後の調整角で二次加工を施し、刃部をつくり出す。素材は自然面打面を加筆し、剥離角103度で剥離されている。
84B	176	椎器	ES	Ch	Ch-10	V	5	幅広の剥片を素材とし、その末端に77～90度の調整角で二次加工を施し、刃部をつくり出す。素材は自然面打面を加筆し、剥離角112度で剥離されている。	幅広の剥片を素材とし、その末端に77～90度の調整角で二次加工を施し、刃部をつくり出す。素材は自然面打面を加筆し、剥離角112度で剥離されている。
94H	7	削器	Sc	An	An-7	IVb	7	自然面打面を残す剥片を素材として、左側縁に二次加工が施されている。調整角は70～80度。素材の剥離角は10度。	自然面打面を残す剥片を素材として、左側縁に二次加工が施されている。調整角は70～80度。素材の剥離角は10度。
104B	119	彫器	Gr	An	An-3	IIIb	5	両面ボルティングな剥離面をもつ剥片を素材とし、折れ面を打面として、剥片の右側縁に刃部をつくり出している。刃部の剥離角は60度。	両面ボルティングな剥離面をもつ剥片を素材とし、折れ面を打面として、剥片の右側縁に刃部をつくり出している。刃部の剥離角は60度。
111Y	10	彫器	Gr	An	An-13	IIb	2	板状剥離面打面を素材とし、平坦な自然面を加筆して、背面に刃部をつくり出している。刃部の剥離角は7度。	板状剥離面打面を素材とし、平坦な自然面を加筆して、背面に刃部をつくり出している。刃部の剥離角は7度。
124B	25	二次加工のある剥片	RF	Tu	Tu-10	IVb	5	縫長剥離面打面をもつ縫長剥片の末端部右側縁に90度に近い角度の二次加工が連続して施されている。素材の両側の剥離角は10度。	縫長剥離面打面をもつ縫長剥片の末端部右側縁に90度に近い角度の二次加工が連続して施されている。素材の両側の剥離角は10度。
134M	3	二次加工のある剥片	RF	An	An-11	V	8	縫長の剥片。側面剥離面打面を加筆。剝離角は121度。右側縁下半に急角度の二次加工が施されている。剥離角は70～85度。	縫長の剥片。側面剥離面打面を加筆。剝離角は121度。右側縁下半に急角度の二次加工が施されている。剥離角は70～85度。
142U	96	二次加工のある剥片	RF	Ob	Ob-3	V	3	縫長の剥片の末端に急角度の二次加工が施されている。素材の打面は筋理面から折れている。石刃加工が、背面の剥離痕の方向は横方向のものもあり、石刃打法ではない。	縫長の剥片の末端に急角度の二次加工が施されている。素材の打面は筋理面から折れている。石刃加工が、背面の剥離痕の方向は横方向のものもあり、石刃打法ではない。
154H	42	二次加工のある剥片	RF	Ob	Ob-5	IVa	7	縫長剥離面打面を素材とし、背面側の右側縁上方と腹面側の素材の打点側に二次加工が施されている。背面側の右側縁上面に筋理面があり、背面側は80度前後の剥離角が多く、腹面側は65～70度の剥離角となっている。	縫長の剥片の右側縁上面に筋理面があり、背面側は80度前後の剥離角が多く、腹面側は65～70度の剥離角となっている。
164B	82	二次加工のある剥片	RF	An	An-13	V	5	縫長剥離面打面を加筆して得られた剥片で、剝離角は103度。背面に頭部調整の剥離痕が見られる。	縫長の剥片の右側縁上面に筋理面があり、背面側は80度前後の剥離角が多く、腹面側は65～70度の剥離角となっている。
172U	60	剥片	Fl	Ob	Ob-3	Vb	3	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は126度。背面は縱方向の剥離面で構成されており。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は126度。背面は縱方向の剥離面で構成されており。
172U	65	剥片	Fl	Ob	Ob-3	Vib	3	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は104度。背面に自然面あり。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は104度。背面に自然面あり。
184B	163	剥片	Fl	Tu	Tu-14	IVa	5	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。背面に自然面あり。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。背面に自然面あり。
194A	18	剥片	Fl	TS	TS-2	IVc	4	縫長の剥片。背面に自然面、筋理面あり。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。末端は階段状である。	縫長の剥片。背面に自然面、筋理面あり。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。末端は階段状である。
204B	127	剥片	Fl	Tu	Tu-14	IIIa	5	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は106度。背面の剥離面の構成から、縫長剥片を垂直的に剥離されていることがわかる。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は106度。背面の剥離面の構成から、縫長剥片を垂直的に剥離されていることがわかる。
214B	265	剥片	Fl	Tu	Tu-5	Vla	5	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。背面に筋理面あり。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。背面に筋理面あり。
222U	121	剥片	Fl	Tu	Tu-15	Vla	3	縫長の剥片の背面左側縁にノンザイ状の微細剥離痕あり。剥離角は55度前後。素材の腹面の両端に微細剥離痕あり。素材の打面が、打点側が欠損する。	縫長の剥片の背面左側縁にノンザイ状の微細剥離痕あり。剥離角は55度前後。素材の腹面の両端に微細剥離痕あり。素材の打面が、打点側が欠損する。
232U	20	剥片	Fl	TS	TS-1	IIb	3	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は104度。背面に自然面を残し、円錐を用いていたことがわかる。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は104度。背面に自然面を残し、円錐を用いていたことがわかる。
242U	1	剥片	Fl	Ag	Ag-1	Ib	3	縫長の剥片。点打面が残る。剝離角は90度。右側縁上部に微細剥離痕が見られる。	縫長の剥片。点打面が残る。剝離角は90度。右側縁上部に微細剥離痕が見られる。
254A	27	剥片	Fl	Tu	Tu-5	IIIa	4	縫長の剥片。單列剥離面打面は欠損する。	縫長の剥片。單列剥離面打面は欠損する。
264B	137	剥片	Fl	An	An-2	IVb	5	石刃状の紙状の剥片。背面の剥離面の構成から、石刃打法によるものでないことがわかる。剝離角は111度。	石刃状の紙状の剥片。背面の剥離面の構成から、石刃打法によるものでないことがわかる。剝離角は111度。
274A	42	剥片	Fl	Tu	Tu-17	Ia	4	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は97度。末端部は折れている。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は97度。末端部は折れている。
282U	67	剥片	Fl	Ob	Ob-6	V	3	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は111度。背面に自然面あり。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は111度。背面に自然面あり。
294Y	18	剥片	Fl	An	An-13	IVa	2	両面ボルティングな剥離面をもつ剥片で、左側縁に鋭い縫辺をもつ。	両面ボルティングな剥離面をもつ剥片で、左側縁に鋭い縫辺をもつ。
304B	223	剥片	Fl	An	An-13	V	5	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は114度。
314Y	16	剥片	Fl	An	An-13	IVa	2	縫長の剥片。点打面が残る。剝離角は120度。背面はボルティングな剥離面で、剝離の方向は腹面とは対称。	縫長の剥片。点打面が残る。剝離角は120度。背面はボルティングな剥離面で、剝離の方向は腹面とは対称。
324M	2	剥片	Fl	An	An-2	Vla	8	幅広の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は104度。	幅広の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は104度。
334B	222	剥片	Fl	An	An-13	V	5	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は119度。背面には横位からの剥離が見られる。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は119度。背面には横位からの剥離が見られる。
344Y	17	剥片	Fl	An	An-11	IVa	2	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は113度。背面に自然面あり。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は113度。背面に自然面あり。
354G	4	剥片	Fl	An	An-9	IIIa	6	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は118度。背面に自然面あり。背面と腹面に小型で幅広の剥離痕あり。	縫長の剥片。單列剥離面打面を加筆。剝離角は118度。背面に自然面あり。背面と腹面に小型で幅広の剥離痕あり。
364B	275	剥片	Fl	An	An-8	IVb	5	縫長の剥片。自然面打面を加筆。剝離角は111度。	縫長の剥片。自然面打面を加筆。剝離角は111度。
374G	3	剥片	Hl	An	An-9	IIIa	6	大型の板状の剥片。單列剥離面打面を加筆。主要剥離面は打面付近がエガティグになっており、末梢部はボルティングとなる。剝離角は162度。背面には幅広の剥片の剥離痕が複数ある。	大型の板状の剥片。單列剥離面打面を加筆。主要剥離面は打面付近がエガティグになっており、末梢部はボルティングとなる。剝離角は162度。背面には幅広の剥片の剥離痕が複数ある。
384M	5	剥片	Fl	An	An-13	IIIa	8	縫長の剥片。自然面打面を加筆。剝離角は111度。	縫長の剥片。自然面打面を加筆。剝離角は111度。

表4 主な出土遺物の観察表(2)

図 画 番 号	グ リ ン ク ド 遺 物 番 号	遺 物 名	器 種 略 号	石 材 略 号	母 岩	地 層	分 布 図	石器の特徴	
354H	37	剥片	F1	An	An-1	IVb	7	幅長の大型剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は103度。	
404B	121	剥片	F1	Tu	Tu-16	IIb	5	幅長の剥片。單剝離面打面を加筆。背面の剥離痕から横長剥片の連続剥離がうかがえる。剝離角は113度。	
414B	126	剥片	F1	An	An-4	IIIa	2	幅長の剥片。單剝離面打面を加筆。剝離角は93度。背面に自然面あり。	
424Y	3	剥片	F1	TS	TS-3	V	2	幅長の剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は113度。	
434B	249	剥片	F1	Tu	Tu-10	V	5	幅広の剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は119度。背面には横方向からの剥離と節理面が見られる。	
444H	26	剥片	F1	Rh	Rh-4	IVb	7	幅長の剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は108度。末端部は蝶状剝離。背面は平坦で、古い剝離面。	
454H	19	剥片	F1	Rh	Rh-4	V	7	幅長の剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は105度。末端部は折れる。頭部調整が施されている。	
462U	116	剥片	F1	Ob	Ob-4	Vla	3	底扁の小型の剥片。單剝離面打面を加筆。剝離角は126度。	
474B	280	剥片	F1	Ob	Ob-4	IIIb	5	幅広の剥片。古く平面な剝離面を加筆。剝離角は115度。末端部は折れている。右側縁に複雑な剝離痕が見られる。	
482U	23	剥片	F1	Ob	Ob-6	IIIa	3	幅広の剥片。自然面打面の緩衝部付近を加筆。剝離角は105度。	
494B	292	剥片	F1	Ob	Ob-4	IIIb	5	幅長の剥片。單剝離面打面を加筆。剝離角は108度。背面はすべて自然面。	
502U	76	剥片	F1	Ch	Ch-4	V	3	幅長の剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は128度。打面側に自然面あり。	
512L	16	剥片	F1	Ch	Ch-3	IVb	3	幅長の剥片。打面は久保する。背面に自然面あり。	
524B	63	剥片	F1	Ch	Ch-2	V	5	幅長の剥片。複剝離面打面を加筆。剝離角は112度。背面に自然面あり。	
534B	238	剥片	F1	Ch	Ch-16	IVb	5	背面に自然面あり。单剝離面打面を加筆。剝離角は115度。末端は折れている。	
54IS	2	剥片	F1	Ch	Ch-18	Iva	1	幅長の剥片。单剝離面打面を加筆。剝離角は96度。背面はすべて自然面で、円錐を用いたことがわかる。	
554B	90	剥片	F1	Ch	Ch-7	IVb	5	幅広の剥片。单剝離面打面を加筆。剝離角は112度。末端部は吸音状態となる。	
564B	189	剥片	F1	Ch	Ch-11	Vla	3	幅広の剥片。单剝離面打面を加筆。剝離角は106度。側面に自然面あり。	
572U	73	剥片	F1	TS	TS-4	Vla	3	单剝離面打面を加筆。剝離角は126度。	
584B	218	剥片	F1	Ch	Ch-2	IVb	5	幅広の剥片。頭部剝離面がこなされているが、打面は自然面で、剝離角は104度。	
594B	206	剥片	F1	Ch	Ch-2	V	5	幅広の剥片。自然面打面を加筆。剝離角は91度。背面には幅広の剥片の剝離痕と自然面がある。	
604B	136	石核	Co	Tu	Tu-4	IVa	5	自然面が残る石核で、自然面の様子から円錐を素材としていることがわかる。自然面に平坦な剝離面を打面として形成をつくりし、そこを加筆して幅広の剥片を剥離している。剥片は全周を回るように剥離している。剝離角は115度前後。	
612U	51	石核	Co	Ch	Ch-6	Vla	3	横長の剥片を素材とし、素材の打面側で剥片の剥離がおこなわれている。長さ0.9cm、幅1.6cm程度の大型の剥片が打点を横に移動しておこなわれている。打面は单剝離面打面で、剝離角は114度。	
624B	203	石核	Co	Ch	Ch-7	IVb	5	自然面が多く残しており、円錐を用いていることがわかる。平坦剝離によって打面側をつくり出し、そこを加筆して、幅広の剥片を剥離している。正面の腰部側の剝離角は104度。	
634B	271	石核	Co	Ch	Ch-3	V	5	打面部は自然面で平坦な剝離によって除去してつくられ、剝離角120度直後で打面を固定し、小形の腰部側剥片を剥離している。	
644B	37	石核	Co	Ch	Ch-9	IVb	5	自然面の状況から、円錐を素材とすることがわかる。剥片を剥離した後、打面が90度変え、次の剥離面剥離を打ちこなっており、打面の繊繁な移動が見られる。	
654B	192	石核	Co	Ch	Ch-17	IIIa	5	打面を動かしながら、縁辺から石核の中心に向かって加筆し、幅広の剥片を剥離している。自然面が多く残り、円錐が用いられていることがわかる。剥片の剝離角は110度前後である。	
664B	241	石核	Co	Ch	Ch-1	Vla	5	円錐を素材とし、縁辺を打面として、剥離角109度で、小型の幅広な剥片を剥離している。さらに、打面が90度変え、剥片の腰部側面を打面にして、小型の剥片を剥離している。	
674B	125	石核	Co	An	An-3	IIIa	5	板状の剥片を素材とし、縁辺を打面として剥離している。剝離角は85度前後である。	
682U	86	石核	Co	An	An-5	Vla	3	板状の剥片で、平坦な自然面で打面として、大型で幅広の剥片を剥離している。剝離角は105度。2点が接合しているが、剥片剥離の後、折れると見られる。	
692U	94	石核	Co	An	An-5	Vb	3	自然面が残る石核で、素材は円錐であったことがわかる。3点の接合資料であるが、3点の分割後はそれぞれ单体で石核等に利用されてはいないため、大型の石核として使われ、分割されたのち磨擦されたものと思われる。この大型の石核からは单剝離面打面を加筆し、剥離角106度(長さ4.5cm)の剥片が剥離されている。	
4G	7	石核	Co	An	An-9	IV	6	外形は複形で、刃部は両面で研磨されているが、使用による破損のためか、2つの抉り状の二次加工は縁辺からの中程的な剝離となっている。表面にも一部自然面が残されていることから、厚さ約2cmの扁平な穂先が素材となっていることがわかる。二次加工には大きな平坦剝離と縁辺の小さな剝離痕が見られる。基部側は厚さを薄くする二次加工が施されている。背面左上から右下にかけてひび割れの線が一本入っているが、割れではない。	
4G	8	石核	Co	An	An-9	IV	6	外形は複形で、刃部は両面で研磨されているが、使用による破損のためか、2つの抉り状の二次加工は刃部は残存するが刃の角は40度。研磨以外の部分は縁辺から中央へ向かう方向の剝離によって形成されている。	
4G	9	石核	Co	An	An-9	IV	6	厚さが一定の扁平な大形の穂先で、削れ面をもつ。表面、裏面ともに平坦な面であるが、特に加工は見られない。全體に磨耗色をしており、火を受けたと考えられる。	
704Y	19	局部磨製石斧	AF	GT		IVa	2		
712U	103	局部磨製石斧	AF	Se	Se-1	Vla	3		
724N	5	斧形石器	Ax	Se	Se-2	V	8		
732U	99	石皿状器	And			V	3		

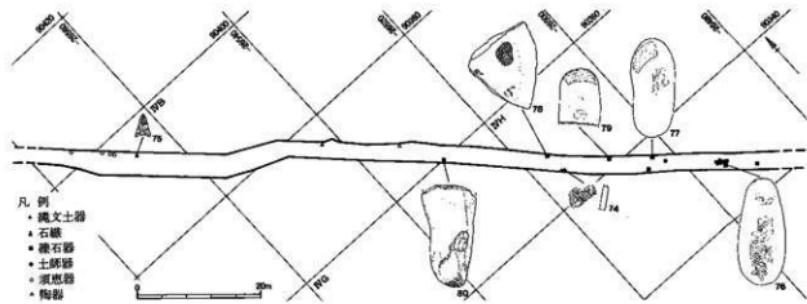


図24 縄文時代以降の遺物の分布

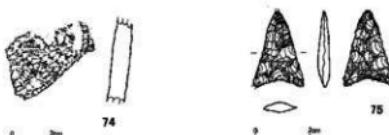


図25 上ノ原遺跡の主な出土遺物（縄文土器、石器）

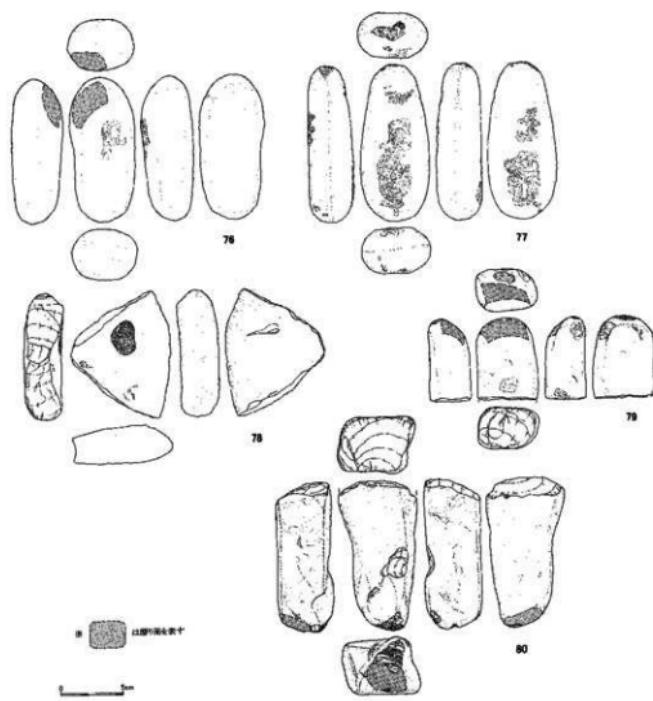


図26 上ノ原遺跡の主な出土遺物（凹石、スタンプ形石器、磨石）

表5 純文時代以降の土器類の観察表

図番号	グリッド	遺物番号	技番	遺物名	部位	地層	標高(m)	文様	炭化物	調査	含有物		織維質	色調	
											内面	外面		内面	外面
74	IVH	4 H 44		縄文土器	胴	II	708.930	施文	-ナデ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	○	にぶい黄褐色	にぶい橙		
-	IVB	4 B 279		縄文土器	胴	IIIa	707.171	無文	-ナデ	qt, bt, 白, 赤	○	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
-	IVH	4 H 45		縄文土器	胴	II	708.821	無文	-ナデ	qt, 白, 赤, 小レキ	○	にぶい黄褐色	橙		
-	IIU	2 U 24		須恵器	胴	IIa	706.203	-	-ロクロナデ	白	-	オーブル黒	黒		
-	IVA	4 A 1		須恵器	胴	IIa	706.533	-	-ロクロナデ	qt, 白	-	灰	灰		
-	IVA	4 A 3		須恵器	胴	IIa	706.539	-	-ロクロナデ	qt, 白	-	灰オーブル	灰オーブル		
-	IVA	4 A 4		須恵器	口縁	IIa	706.582	-	-ロクロナデ	qt, 白	-	灰オーブル	灰オーブル		
-	IVN	4 N 2		須恵器	口縁	IIb	706.755	-	-ロクロナデ	qt, 白	-	灰	灰		
-	IVB	4 B 293		氣泡器	胴	II	707.713	-	-ロクロナデ	白	-	赤褐色	灰		
-	IVH	4 H 23		土師器	胴	II	709.010	-	○ロクロナデ	qt, ho, bt, 白, 赤, 小レキ	-	橙	にぶい褐色		
-	IVH	4 H 28		土師器	胴	II	709.023	-	○ナデ	qt, bt, 白, 赤, 小レキ	-	にぶい褐色	にぶい黄褐色		
-	IVH	4 H 29		土師器	胴	II	709.012	-	-ロクロナデ	qt, bt, 白, 赤, 小レキ	-	にぶい褐色	赤褐色		
-	IVH	4 H 30		土師器	胴	II	709.012	-	○ハケ	qt, ho, bt, 白, 赤, 小レキ	-	橙	にぶい褐色		
-	IVH	4 H 31		土師器	胴	II	708.930	-	○ロクロナデ	qt, bt, 白, 赤, 小レキ	-	にぶい褐色	にぶい褐色		
-	IVH	4 H 32		土師器	胴	II	709.010	-	○ロクロナデ	qt, bt, 白, 赤, 小レキ	-	にぶい褐色	にぶい褐色		
-	IVH	4 H 33		土師器	胴	II	708.981	-	○ハケ	qt, bt, 白, 赤, 小レキ	-	にぶい褐色	にぶい褐色		
-	IVH	4 H 58 1		土師器	口縁	IVa	708.978	-	-ロクロナデ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	-	淡黃褐色	にぶい褐色		

qt:石英、ho:角閃石、bt:黒雲母、白:白色片岩、赤:赤色岩片、小レキ:小さな礫を表す

表6 純文時代以降の石器の観察表

図番号	グリッド	遺物番号	遺物名	石材	地層	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
75	IVA	4 A 49	石 砕	Ch	IIb	706.176	2.8	1.9	0.4	1.4
76	IVH	4 H 51	凹 石	And	IIb	709.117	6.9	5.3	4.1	381.0
77	IVH	4 H 24	凹 石	And	II	708.969	7.8	5.6	3.5	306.0
78	IVH	4 H 54	凹 石	And	IIb	708.861	10.1	8.1	3.2	250.0
79	IVH	4 H 53	スタンプ形石器	And	IIb	709.045	6.9	5.0	3.2	171.0
80	IVG	4 G 1	磨 石	Sa	IIIa	707.970	12.3	6.3	4.5	513.0
-	IVH	4 H 10	敲 石	花崗岩	II	708.893	11.5	6.6	5.8	647
-	IVH	4 H 41	磨 石	Sa	IIIb	709.089	7.0	5.3	2.6	113.0

には縄文が施されている。胎土の状況などから3点はいずれも縄文時代早期に位置づけておきたい。石器は石礫が1点、凹石が3点、スタンプ形石器1点、磨石2点、敲石1点であった。75はチャート製の凹基無毫鐵である。図26の76は細長い円礫を素材とし、表面の中央付近に浅い凹みがある。先端付近に一部磨り面がある。77は細長い円礫を素材とし、表面に4ヶ所、裏面に4ヶ所の凹みがある。細い側の先端には敲打痕が見られる。78は扁平な円礫を素材とし、平坦な面の一部に凹みがある。79は細長い円礫を素材としていると思われ、平坦な割れ面をもつ。自然面の先端部には敲打痕があり、その周辺に磨り面が見られる。80は細長い亜円礫を素材とし、先端の一部に磨り面が見られる。これらの石器は共伴した土器と同様に縄文時代早期に位置づけておきたい。

須恵器、土師器は全て小片のため図化ができなかった。手がかりが少ないために時期を特定することは難しいが、須恵器が存在し、土師器に黒色土器が含まれていないことなどから、9世紀ころの所産と位置づけておきたい。

III 東裏遺跡（帝石パイプライン地点）

1. 調査の概要

東裏遺跡は野尻湖の南西1.3kmに位置し、北側の上ノ原遺跡から続き、北西から南東方向に1.3kmにわたって広がる広範囲の遺跡で、旧石器、縄文、弥生、平安、中世、近世の複合遺跡である。特別養護老人ホーム建設に伴う発掘調査では後期旧石器時代後半の杉久保型ナイフ形石器を伴う石器群や、瀬戸内系の石器群、尖頭器石器群などの遺物が検出されている。また、縄文時代草創期の土器もまとめて出土した（渡辺 1994）。また、上信越自動車道建設に伴って平成5年～7年に発掘調査が実施され、特に後期旧石器時代のまとまった資料が得られている（長野県埋蔵文化財センター 2000）。このときの調査と今回の調査の場所については図27に示した。パイプライン敷設のルートは伊勢見山から南西方向へ伸びる尾根を横断していく、比較的平坦な地形の地点を選定してトレーンチを設定し、遺物が出土したところを把握した（図28）。

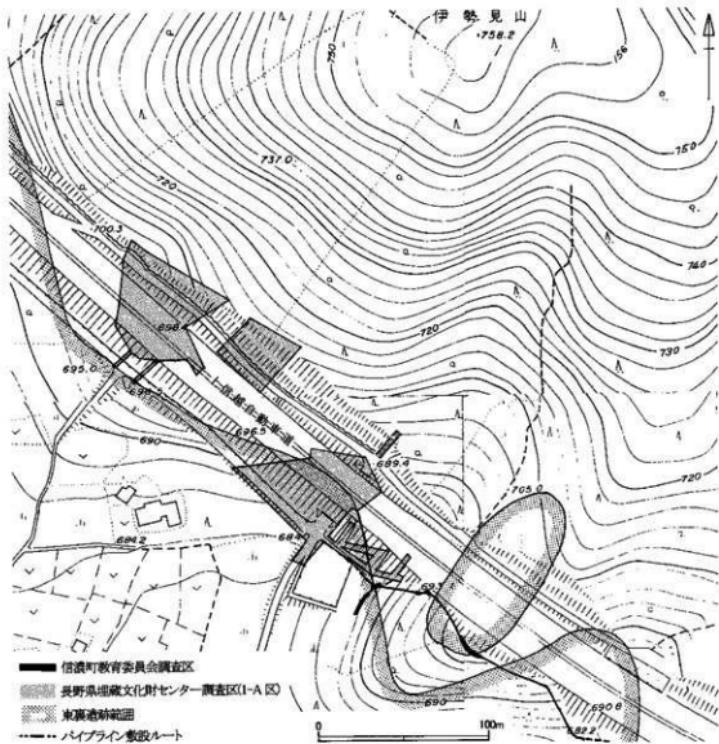


図27 東裏遺跡の範囲と調査地の位置

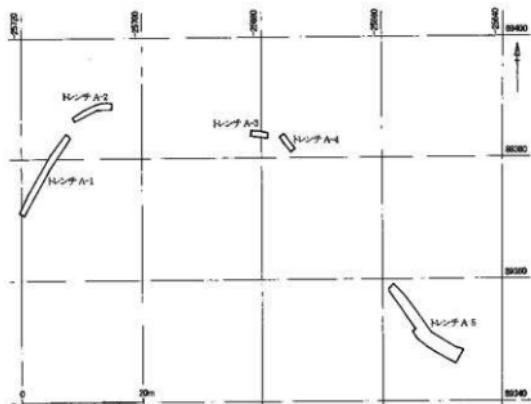


図28 東裏遺跡のトレンチの位置

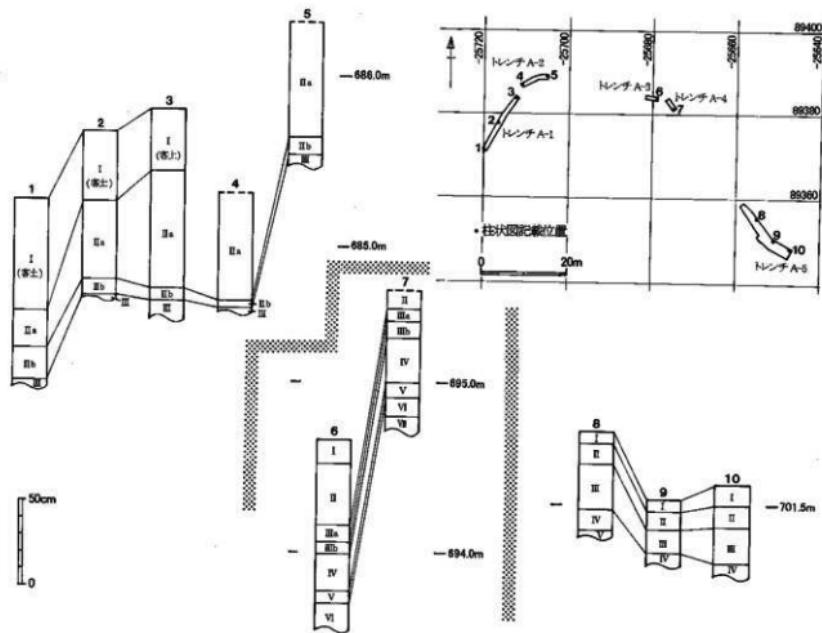


図29 東裏遺跡の土層

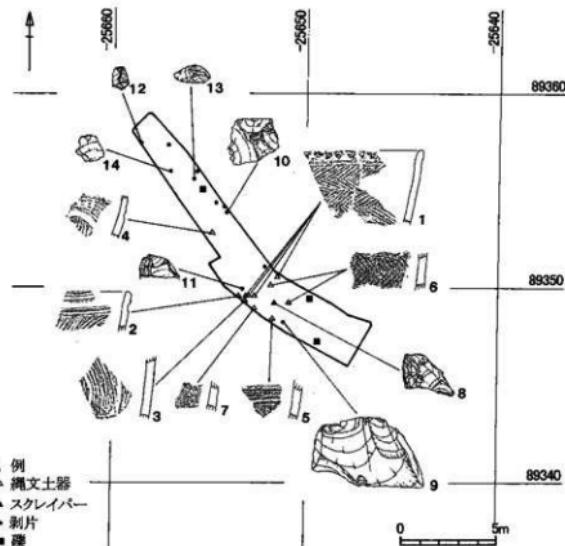


図30 東裏遺跡のトレンチA-5の遺物分布

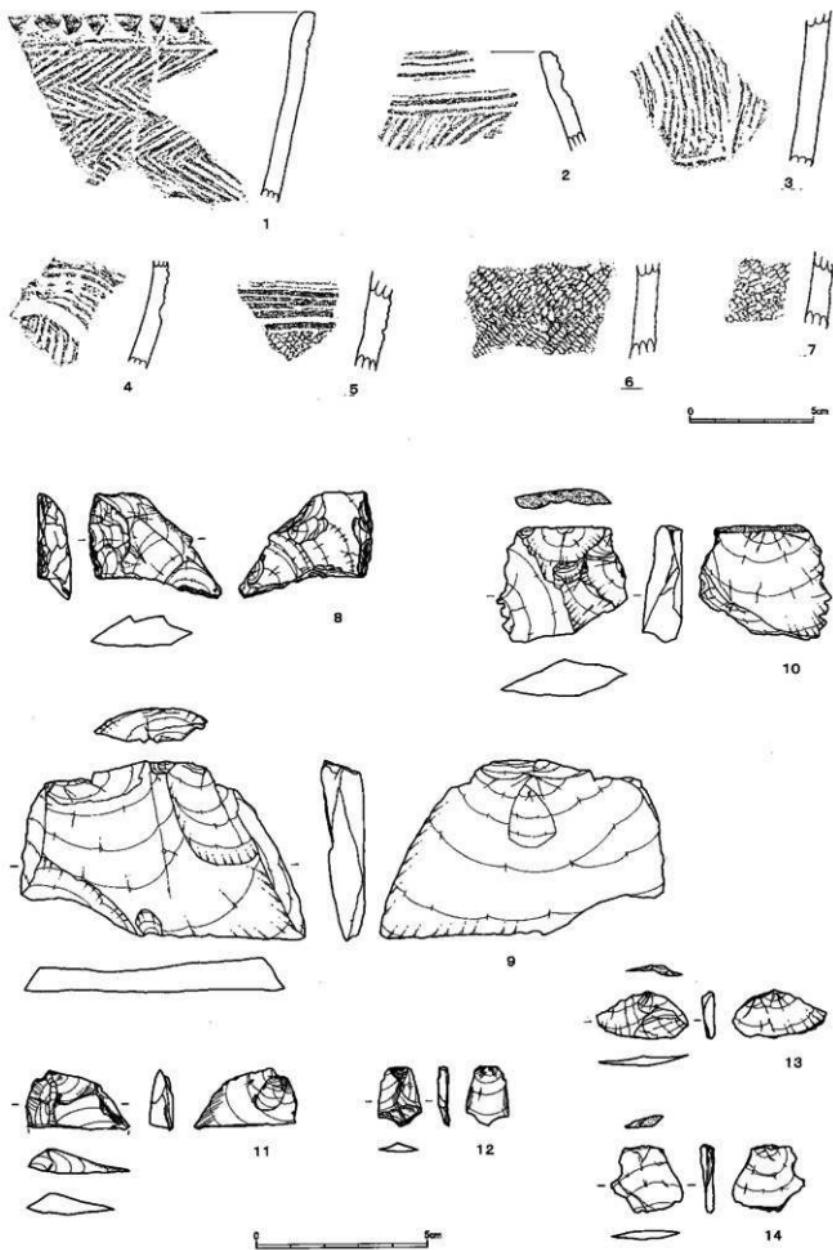


図31 東裏遺跡の主な出土遺物（縄文土器、搔器、剥片）

表7 土器類の観察表

団番号	トレンチ	遺物番号	遺物名	部位	地層	標高(m)	文様	調整	含有物	色調	
										内面	外面
1	A 5	18	縄文土器	胴	II	701.230	三角印刻文、矢羽状沈線文	ミガキ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	にぶい橙	橙
	A 5	19	縄文土器	口縁	II	701.219					
	A 5	20	縄文土器	胴	I	701.288					
	A 5	23	縄文土器	胴	II	701.320					
2	A 5	15	縄文土器	口縁	II	701.240	平行沈線文、渦巻文	ミガキ	qt, bt, 白, 赤, 小レキ	橙	橙
3	A 5	17	縄文土器	胴	II	701.206	渦巻文	ナデ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	にぶい橙	橙
4	A 5	14	縄文土器	胴	III	701.315	渦巻文	ミガキ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	にぶい黒	黒
5	A 5	25	縄文土器	胴	II	701.089	平行沈線文、縄文LR	ナデ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	灰黄褐	褐灰
6	A 5	22	縄文土器	胴	III	701.294	羽状調文	ナデ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	にぶい橙	浅黄褐
	A 5	27	縄文土器	胴	II	701.340					
7	A 5	21	縄文土器	胴	II	701.195	羽状調文	ナデ	qt, ho, 白, 赤, 小レキ	にぶい黄褐	橙
-	A 5	30	陶器		I	700.975					
-	A 1	1	磁器		IIIa	685.323	染付				
-	A 1	2	陶器		IIIa	685.344					

qt:石英、ho:角閃石、bt:黒雲母、白:白色岩片、赤:赤色岩片、小レキ:小さな礫を表す。

2. 出土層位と遺物の分布

遺物は29点出土したが、トレンチA-1から出土した陶器、磁器各1点以外はトレンチA-5から出土した。トレンチA-5ではⅡ層からⅢ層にかけて遺物が出土している。土器と石器の分布は隣接する関係にあり、一部重なっている。

3. 遺物

縄文土器は11点出土した。図31の1は平口縁の深鉢形土器の一部と思われる。口縁部に三角印刻文が連続し、矢羽状沈線文が施される。2はキャリバー形の深鉢形土器の口縁部と思われる。口縁部に平行沈線文が施され、その下位に渦巻文が施されている。3、4は胴部に渦巻文が施されている。5は平行沈線文の下位にLRの縄文が施されている。6、7は胴部に羽状調文が施されている。このような文様構成は崎ヶ峯式、鍋屋町式土器に類似性が認められることから縄文時代前期の終末期に位置づけられるものと思われる。石器は12点出土し、7点を図化した。図31の8は搔器で、剥片の縁辺に背面、腹面ともに平坦剥離によって刃部が作り出されている。刃部の調整角は49度である。9は幅広の剥片で、自然面打面を加撃して剥離角110度で剥離されていて、末端は蝶番剥離となっている。10は横長の剥片で、複剥離面打面を加撃し、剥離角112度で剥離されている。11は線打面の残る縦長の剥片で、末端側は欠損する。12は線打面の残る縦長の剥片で、末端部に微細な剥離痕がある。13は横長の剥片で、單剝離面打面を加撃し、剥離角76度で剥離され、末端が蝶番剥離となっている。14は自然面打面を加撃して剥離角79度で剥離され、末端が蝶番剥離となっている剥片である。これらの石器は縄文土器と出土地点が隣接し、一部重なっており、出土層位もほぼ同じことから、縄文土器と同様に縄文時代前期終末期の所産と考えておきたい。

表8 石器の観察表

団番号	トレンチ	遺物番号	遺物名	石材	地層	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
8	A 5	24	搔器	An	III	701.167	2.8	4.1	0.9	8.6
9	A 5	13	剥片	An	IV	701.338	3.3	3.8	1.2	13.0
10	A 5	26	剥片	An	III	700.999	5.2	8.5	1.3	43.0
11	A 5	16	剥片	Ob	II	701.263	1.8	3.0	0.6	2.5
12	A 5	10	剥片	Ob	I	701.484	1.7	1.3	0.3	0.5
13	A 5	8	剥片	An	II	701.572	1.4	2.7	0.6	0.8
14	A 5	12	剥片	An	II	701.470	2.0	2.1	0.5	1.2
-	A 5	1	剥片	An	カラン	701.483	1.4	0.8	0.4	0.5
-	A 5	4	剥片	An	II	701.642	1.6	1.2	0.4	0.3
-	A 5	7	剥片	An	II	701.664	2.5	3.5	0.7	6.8
-	A 5	8	剥片	An	III	701.608	2.3	2.8	1.3	6.2
-	A 5	9	剥片	An	III	701.372	3.2	1.5	0.8	2.8

IV 裏ノ山遺跡（帝石バイライン地点）

1. 調査の概要

裏ノ山遺跡は伊勢見山の南西側に位置する小高い山の山頂を中心に広がる遺跡で、上信越自動車道にともなう調査により後期旧石器時代の遺跡が確認されている（長野県埋蔵文化財センター 2000）。バイラインの計画ルートに沿って山頂の平坦部分とふもとの緩傾斜地、山の中腹の傾斜地に試掘トレンチを設定し、遺物の出土があった場合は拉張し、遺物の分布を確認した。この地域は一連の調査の中でC地区とし、幅1mのトレンチを7ヶ所設置し、西からC-1～C-7とした。遺物はC-2でいくつか出土したことから、トレンチの長さを約43mまで延長し、調査面積の半分は幅を2mに拡張した（図32）。

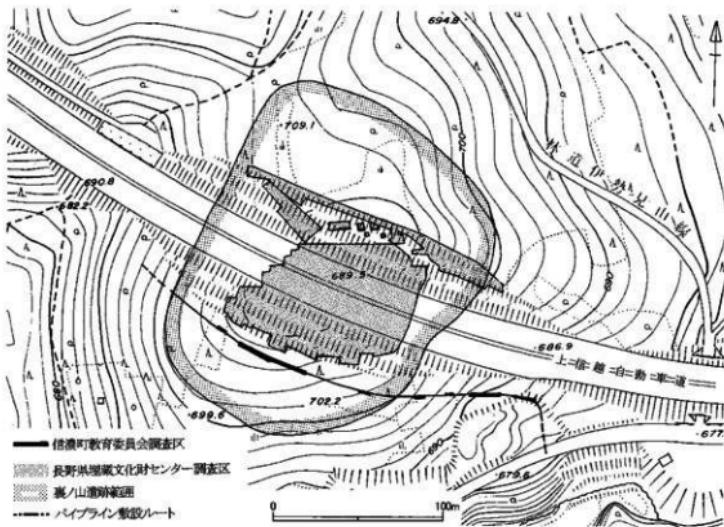


図32 裏ノ山遺跡の範囲と調査地の位置



図33 裏ノ山遺跡のトレンチの位置

2. 出土層位と遺物の分布

図34の柱状図からよみとれるように、C-2トレーナーの中央部周辺(柱状図4)が最も高く、そこから両側へ下る地形となっている。この山頂部周辺のやや平坦な地形では、それぞれの地層は薄いものの、I~VI層までが描っている。傾斜地では地層の厚さが既して薄くなり、抜けている地層もある。なお、東側斜面はバックホウにより表土を20cm程度削りだして手掘りによる発掘をおこなった。

遺物はトレンチC-2から18点、トレンチC-3、C-6、C-7から各1点が出土した。C-3からは陶器が出土した。C-6、C-7から出土した遺物は粗い安山岩(And)製の石片としたもので、自然にできた礫の可能性が高い。よって、確定な旧石器時代の遺物はトレンチC-2のみの出土である。ここからは剥片14点、礫2点が出土した。時期を特定できる石器は出土しなかった。出土層位ではIVc層からの出土が多かった。

3. 遺物

剥片14点はほとんどが小形で、剥片の内10点がチャートで占めている。図示した4点について以下に記述する。図36の1は剥片で、打点部は残されていない。背面には複数の剥離面が残され、周辺部から中心へ向う剥離痕が残る。2は幅広の剥片で、单側剥離面を加壓し、剥離角110度で剥離されていて、末端部が折れる。3は縦長い剥片で、單側剥離面を加壓して剥離角124度で剥離されている。自然面が残り、円錐を素材としていることがわかる。4は継ぎの剥片で單側面を加壓し、剥離角は102度で剥離されている。右側縫の一部に微細な剥離痕がある。

文献

- 長野県埋蔵文化財センター 2000 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡」
- 中村敦子・中村由克 1994 「信濃町上ノ原遺跡の第2次調査」『第6回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨』
- 中村由克 1992a 「<速報>長野県上ノ原遺跡における細石器文化の遺構(Ⅰ)」『考古学ジャーナル』No342
- 中村由克 1992b 「<速報>長野県上ノ原遺跡における細石器文化の遺構(Ⅱ)」『考古学ジャーナル』No344
- 野尻湖火山灰グループ 1993 「野尻湖の湖底ボーリング試料NJ88の火山灰層」『地図研専報41 中部日本における最終氷期の占環境—野尻湖底ボーリングコア分析—』
- 野尻湖人類考古グループ 1987 「野尻湖遺跡群の旧石器文化I」
- 野尻湖人類考古グループ 1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告第2号』
- 野尻湖地質グループ 1990 「野尻湖発掘地とその周辺の地質 その6 (1986—1988)」『地図研専報37 野尻湖の発掘5 (1987—1989)』
- 渡辺哲也 1994 「信濃町東裏遺跡の調査」『第6回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨』

表10 上ノ原遺跡の出土石器全リスト(1)

登録番号	グリッド	遺物番号	目次	遺物名	石材	作成	地質	標高	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	組合	登録番号	グリッド	遺物番号	目次	遺物名	石材	作成	地質	標高	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	組合	
44	I Y 1.5	2	石片	Ch-C18	Rn	704.17	2.7	1.0	0.6	2.9			B1	2 U 1	石片	Ts-T6	Nc	704.73	3.2	4.2	1.4	11.1				
45	I Y 1.5	3	石片	Ts-T3-C	V	705.39	5.6	4.2	1.8	28.3			B1	2 U 1	石片	Rh-Rh-1	Nc	704.67	2.2	1.7	0.6	1.4				
46	I Y 1.5	4	石片	An-An-2	Bn	705.87	4.8	3.3	0.7	7.1			B1	2 U 64	石片	An-Ap-9	Va	704.64	1.1	1.4	0.5	0.5				
47	I Y 1.5	7	石片	An-An-2	Rn	705.81	1.0	2.0	0.3	2.8			B1	2 U 65	石片	Ts-T5-1	V	704.62	1.9	2.5	0.3	23.9	21.9/4			
48	I Y 1.5	9	石片	An-An-2	Rn	705.89	0.9	1.0	0.6	3.8			B1	2 U 66	石片	An-Ap-5	Vb	704.62	1.9	2.5	0.3	23.9	21.9/4			
49	I Y 1.5	10	石片	An-An-2	Rn	706.17	8.3	4.6	2.0	26.5			B1	2 U 67	石片	Ts-Ty-7	V	704.60	3.1	2.7	0.3	4.2	21.7/2			
50	I Y 1.5	13	石片	An-An-2	Rn	706.05	4.2	4.3	0.9	15.0	(IVY-14)	69	B1	2 U 68	石片	An-An-5	Vb	704.53	4.7	9.6	3.7	31.1/8	21.8/6			
51	I Y 1.5	15	石片	An-An-2	Rn	706.07	2.6	2.5	0.8	6.0	(IVY-12)	70	B1	2 U 69	石片	Ts-Ty-14	V	704.49	2.3	3.1	0.3	11.2				
52	I Y 1.5	16	石片	An-An-2	Rn	706.09	1.0	2.0	0.3	2.8	(IVY-13)	71	B1	2 U 70	石片	Ts-Ty-14	V	704.49	2.3	3.1	0.3	11.2				
53	I Y 1.5	17	石片	An-An-2	Rn	706.79	1.1	1.1	0.3	2.8			B1	2 U 71	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.4	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
54	I Y 1.5	19	石片	An-An-2	Rn	705.86	5.1	4.0	1.6	26.1			B1	2 U 72	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
55	I Y 1.5	19	石片	Gt	Nv	706.89	10.5	5.4	2.3	19.6			B1	2 U 106	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
56	I Y 1.5	20	石片	An-An-2	Rn	705.89	4.9	4.8	0.8	20.8			B1	2 U 107	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
57	I Y 1.5	21	石片	An-An-2	Rn	705.89	1.0	2.0	0.3	2.8			B1	2 U 108	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
58	I Y 1.5	22	石片	An-An-2	Rn	705.76	2.6	2.0	0.6	5.4			B1	2 U 109	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
59	I Y 1.5	23	石片	An-An-2	Rn	705.86	1.2	2.7	0.7	3.4			B1	2 U 110	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
60	I Y 1.5	24	石片	An-An-2	Rn	705.79	3.6	1.7	1.1	3.2			B1	2 U 116	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
61	I Y 1.5	25	石片	An-An-2	Rn	705.85	3.2	1.7	0.8	3.6			B1	2 U 118	石片	An-An-1	Vb	704.40	3.4	5.2	0.8	19.8	21.1/11			
62	I Y 1.5	26	石片	An-An-2	Rn	705.51	1.2	1.8	0.5	3.9			B1	2 U 119	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
63	I Y 1.5	27	石片	An-An-2	Rn	705.51	1.2	1.8	0.5	3.9			B1	2 U 120	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
64	I Y 1.5	28	石片	An-An-2	Rn	705.56	4.5	1.7	0.4	3.6			B1	2 U 111	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.2	4.8	1.4	19.4	21.9/6			
65	I Y 1.5	29	石片	An-An-2	Rn	704.89	4.5	2.4	1.1	9.3			B1	2 U 121	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
66	I Y 1.5	30	石片	An-An-2	Rn	704.89	4.4	2.3	1.2	6.2			B1	2 U 114	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
67	I Y 1.5	31	石片	An-An-2	Rn	704.89	4.4	2.3	1.2	6.2			B1	2 U 118	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
68	I Y 1.5	32	石片	An-An-2	Rn	705.18	2.6	2.3	1.2	7.1			B1	2 U 119	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
69	I Y 1.5	33	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 120	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
70	I Y 1.5	34	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 121	石片	Rh-Rh-2	Vg	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
71	I Y 1.5	35	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 122	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
72	I Y 1.5	36	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 123	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
73	I Y 1.5	37	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 124	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
74	I Y 1.5	38	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 125	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
75	I Y 1.5	39	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 126	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
76	I Y 1.5	40	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 127	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
77	I Y 1.5	41	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 128	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
78	I Y 1.5	42	石片	An-An-2	Rn	705.18	1.2	2.0	0.6	6.5			B1	2 U 129	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
79	I Y 1.5	43	石片	Ts-T1	Rn	705.27	0.2	2.0	1.2	16.1			B1	2 U 130	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
80	I Y 1.5	44	石片	An-An-2	Rn	705.27	4.1	1.3	0.9	3.3			B1	2 U 131	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
81	I Y 1.5	45	石片	Cb-C12	V	705.07	1.8	2.8	0.6	2.8			B1	2 U 132	石片	Ts-Ty-14	V	704.41	3.6	3.2	1.0	9.2	21.9/6			
82	I Y 1.5	46	石片	Cb-C12	V	705.37	2.6	3.0	0.6	3.5			B1	2 U 134	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
83	I Y 1.5	47	石片	An-An-2	Rn	705.02	1.6	1.5	0.6	1.8			B1	2 U 135	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
84	I Y 1.5	48	石片	An-An-2	Rn	705.02	1.6	1.5	0.6	1.8			B1	2 U 136	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
85	I Y 1.5	49	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 137	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
86	I Y 1.5	50	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 138	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
87	I Y 1.5	51	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 139	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
88	I Y 1.5	52	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 140	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
89	I Y 1.5	53	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 141	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
90	I Y 1.5	54	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 142	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
91	I Y 1.5	55	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 143	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
92	I Y 1.5	56	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 144	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
93	I Y 1.5	57	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 145	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
94	I Y 1.5	58	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 146	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
95	I Y 1.5	59	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 147	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
96	I Y 1.5	60	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 148	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
97	I Y 1.5	61	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 149	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
98	I Y 1.5	62	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 150	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
99	I Y 1.5	63	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 151	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
100	I Y 1.5	64	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 152	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
101	I Y 1.5	65	石片	An-An-2	Rn	705.06	1.6	1.4	0.6	1.8			B1	2 U 153	石片	An-An-1	Vb	704.40	4.1	3.3	2.5	1.8	21.9/3			
102	I Y 1.5	66	石片	An-An																						

表11 上ノ原遺跡の出土石器全リスト(2)

図 番	グリッド	遺物番号	遺物名	石材	性質	地層	標高 (m)	南北 (cm)	東西 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	複合	図 番	グリッド	遺物番号	性質	地層	標高 (m)	南北 (cm)	東西 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	複合	
107	E 4 B 23	607片	An	An-11	石片	Tv	706.48	1.5	2.2	0.2	1.0		40	E 4 B 121	石片	Tv	706.85	1.8	3.7	0.6	5.7			
108	E 4 B 24	608片	Cb	Cb-7	石片	Tv	706.47	1.4	0.9	0.4			41	E 4 B 122	石片	Cb	Cb-5	Tv	706.87	1.2	1.0	0.3	0.3	
109	E 4 B 25	609片	Cb	Cb-7	石片	Tv	706.47	1.4	0.9	0.4			42	E 4 B 123	石片	An	An-2	Tv	706.87	5.5	6.1	1.9	29.4	
110	E 4 B 26	610片	Cb	Cb-13	石片	Tv	706.47	1.2	0.9	0.3			43	E 4 B 124	石片	An	An-4	Tv	706.88	2.0	3.0	0.4	1.8	
111	E 4 B 27	611片	Cb	Cb-17	石片	Tv	706.47	1.2	0.9	0.3			44	E 4 B 125	石片	An	An-5	Tv	706.88	2.0	3.0	0.4	1.8	
112	E 4 B 28	612片	Cb	Cb-18	石片	Tv	706.47	1.2	0.9	0.3			45	E 4 B 126	石片	An	An-6	Tv	706.88	2.0	3.0	0.4	1.8	
113	E 4 B 29	613片	Cb	Cb-19	石片	Tv	706.47	1.2	0.9	0.3			46	E 4 B 127	石片	An	An-7	Tv	706.88	2.0	3.0	0.4	1.8	
114	E 4 B 30	614片	Cb	Cb-20	石片	Tv	706.48	2.0	2.0	0.9	2.1		47	E 4 B 128	石片	Tv	706.88	0.3	3.7	0.2	65.5			
115	E 4 B 31	615片	An	An-12	石片	Tv	706.48	0.6	0.2	0.1			48	E 4 B 129	石片	An	An-4	Tv	706.88	2.1	1.8	0.8	2.1	
116	E 4 B 32	616片	Cb	Cb-21	石片	Tv	706.48	1.9	2.0	0.7	0.8		49	E 4 B 130	石片	Tv	706.88	0.7	6.0	0.6	199.1			
117	E 4 B 33	617片	Cb	Cb-22	石片	Tv	706.48	2.1	2.0	0.7	0.8		50	E 4 B 131	石片	Cb	Cb-5	Tv	706.88	1.1	1.8	0.6	0.5	
118	E 4 B 34	618片	Cb	Cb-26	石片	Tv	706.48	1.1	0.9	0.5	0.5		51	E 4 B 132	石片	An	An-11	Tv	706.88	1.7	2.1	1.4	1.7	
119	E 4 B 35	619片	Cb	Cb-31	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		52	E 4 B 133	石片	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1			
120	E 4 B 36	620片	Cb	Cb-32	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		53	E 4 B 134	石片	Cb	Cb-15	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
121	E 4 B 37	621片	Cb	Cb-33	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		54	E 4 B 135	石片	Cb	Cb-17	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
122	E 4 B 38	622片	Cb	Cb-34	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		55	E 4 B 136	石片	Cb	Cb-18	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
123	E 4 B 39	623片	Cb	Cb-35	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		56	E 4 B 137	石片	Cb	Cb-19	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
124	E 4 B 40	624片	Cb	Cb-36	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		57	E 4 B 138	石片	Cb	Cb-20	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
125	E 4 B 41	625片	Cb	Cb-37	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		58	E 4 B 139	石片	Cb	Cb-21	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
126	E 4 B 42	626片	Cb	Cb-38	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		59	E 4 B 140	石片	Cb	Cb-22	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
127	E 4 B 43	627片	Cb	Cb-39	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		60	E 4 B 141	石片	Cb	Cb-23	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
128	E 4 B 44	628片	Cb	Cb-40	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		61	E 4 B 142	石片	Cb	Cb-24	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
129	E 4 B 45	629片	Cb	Cb-41	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		62	E 4 B 143	石片	Cb	Cb-25	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
130	E 4 B 46	630片	Cb	Cb-42	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		63	E 4 B 144	石片	Cb	Cb-26	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
131	E 4 B 47	631片	Cb	Cb-43	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		64	E 4 B 145	石片	Cb	Cb-27	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
132	E 4 B 48	632片	Cb	Cb-44	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		65	E 4 B 146	石片	Cb	Cb-28	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
133	E 4 B 49	633片	Cb	Cb-45	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		66	E 4 B 147	石片	Cb	Cb-29	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
134	E 4 B 50	634片	Cb	Cb-46	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		67	E 4 B 148	石片	Cb	Cb-30	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
135	E 4 B 51	635片	Cb	Cb-47	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		68	E 4 B 149	石片	Cb	Cb-31	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
136	E 4 B 52	636片	Cb	Cb-48	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		69	E 4 B 150	石片	Cb	Cb-32	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
137	E 4 B 53	637片	An	An-12	石片	Tv	706.47	2.0	2.0	0.5	0.5		70	E 4 B 151	石片	An	An-11	Tv	706.88	3.2	3.2	0.7	2.3	
138	E 4 B 54	638片	Cb	Cb-49	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		71	E 4 B 152	石片	An	An-11	Tv	706.88	1.5	1.3	0.7	1.1	
139	E 4 B 55	639片	Cb	Cb-50	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		72	E 4 B 153	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
140	E 4 B 56	640片	Cb	Cb-51	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		73	E 4 B 154	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
141	E 4 B 57	641片	Cb	Cb-52	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		74	E 4 B 155	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
142	E 4 B 58	642片	Cb	Cb-53	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		75	E 4 B 156	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
143	E 4 B 59	643片	Cb	Cb-54	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		76	E 4 B 157	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
144	E 4 B 60	644片	Cb	Cb-55	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		77	E 4 B 158	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
145	E 4 B 61	645片	Cb	Cb-56	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		78	E 4 B 159	石片	An	An-12	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
146	E 4 B 62	646片	Cb	Cb-57	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		79	E 4 B 160	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
147	E 4 B 63	647片	Cb	Cb-58	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		80	E 4 B 161	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
148	E 4 B 64	648片	Cb	Cb-59	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		81	E 4 B 162	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
149	E 4 B 65	649片	Cb	Cb-60	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		82	E 4 B 163	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
150	E 4 B 66	650片	Cb	Cb-61	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		83	E 4 B 164	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
151	E 4 B 67	651片	Cb	Cb-62	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		84	E 4 B 165	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
152	E 4 B 68	652片	Cb	Cb-63	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		85	E 4 B 166	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
153	E 4 B 69	653片	Cb	Cb-64	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		86	E 4 B 167	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
154	E 4 B 70	654片	Cb	Cb-65	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		87	E 4 B 168	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
155	E 4 B 71	655片	Cb	Cb-66	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		88	E 4 B 169	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
156	E 4 B 72	656片	Cb	Cb-67	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		89	E 4 B 170	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
157	E 4 B 73	657片	Cb	Cb-68	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		90	E 4 B 171	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
158	E 4 B 74	658片	Cb	Cb-69	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		91	E 4 B 172	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
159	E 4 B 75	659片	Cb	Cb-70	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		92	E 4 B 173	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
160	E 4 B 76	660片	Cb	Cb-71	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		93	E 4 B 174	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
161	E 4 B 77	661片	Cb	Cb-72	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		94	E 4 B 175	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
162	E 4 B 78	662片	Cb	Cb-73	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		95	E 4 B 176	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
163	E 4 B 79	663片	Cb	Cb-74	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		96	E 4 B 177	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
164	E 4 B 80	664片	Cb	Cb-75	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		97	E 4 B 178	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7	1.1	
165	E 4 B 81	665片	Cb	Cb-76	石片	Tv	706.47	1.0	2.0	0.5	0.5		98	E 4 B 179	石片	An	An-11	Tv	706.88	2.1	1.5	0.7		

表12 上ノ原遺跡の出土石器全リスト(3)

表13 上ノ原遺跡の出土磚の属性表

写真図版 1



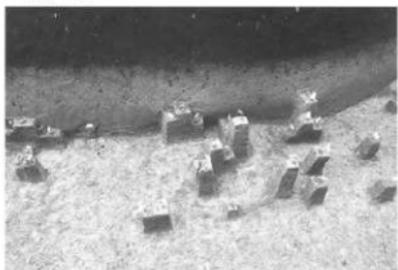
1. 上ノ原遺跡 調査の様子 (IVM グリッド周辺)



2. 上ノ原遺跡 調査の様子 (IVB グリッド周辺)



3. 上ノ原遺跡 遺物の出土状況 (IVB グリッド周辺・北西から)



4. 上ノ原遺跡 遺物の出土状況 (IVB グリッド周辺・東南から)



5. 上ノ原遺跡 遺物の出土状況 (IIU グリッド周辺・北東から)



6. 上ノ原遺跡 遺物の出土状況 (石皿状縄・図番号73周辺)



7. 上ノ原遺跡 石皿状縄 (図番号73) の出土状況



1. 上ノ原遺跡 局部磨製石斧（図番号71）の出土状況（遠景）



2. 上ノ原遺跡 局部磨製石斧（図番号71）の出土状況（近景）



3. 上ノ原遺跡 二次加工のある剥片（図番号14）の出土状況



4. 東裏遺跡 トレンチA-1の調査の様子



5. 東裏遺跡 トレンチA-5の調査の様子（西から）



6. 東裏遺跡 トレンチA-5の調査の様子（東から）



7. 東裏遺跡 トレンチA-5の調査の様子（東から）

写真図版 3



1. 東裏遺跡 トレンチ A-1 の遺物の出土状況



2. 東裏遺跡 トレンチ A-2 の遺物の出土状況



3. 東裏遺跡 トレンチ A-4 の完掘状況



4. 東裏遺跡 土層



5. 東裏遺跡 トレンチ A-5 の遺物の出土状況（遠景）



6. 東裏遺跡 トレンチ A-5 の遺物の出土状況（近景）

写真図版 4



1. 裏ノ山遺跡 調査地より黒姫山を望む



2. 裏ノ山遺跡 トレンチC-2の調査の様子



3. 裏ノ山遺跡 トレンチC-1の発掘状況



4. 裏ノ山遺跡 トレンチC-3の遺物の出土状況



5. 裏ノ山遺跡 トレンチC-2の遺物の出土状況（西から）



6. 裏ノ山遺跡 トレンチC-2の遺物の出土状況（東から）

写真図版 5



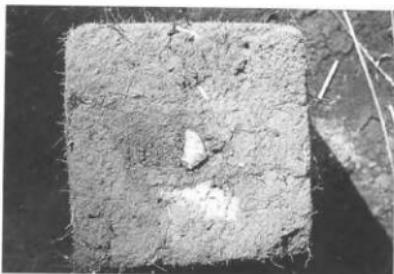
1. 裏ノ山遺跡 トレンチC-4 の完掘状況



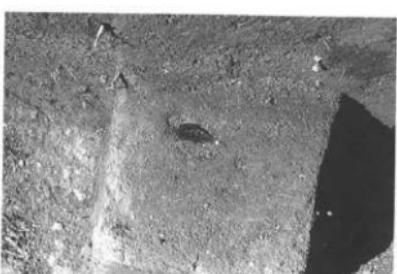
2. 裏ノ山遺跡 トレンチC-5 の完掘状況



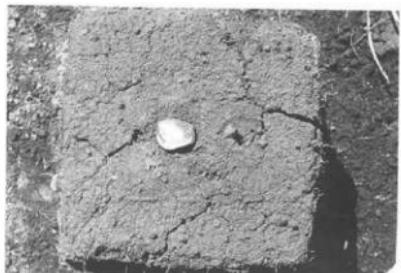
3. 裏ノ山遺跡 トレンチC-7 の出土状況



4. 裏ノ山遺跡 剥片（C 2-1）の出土状況



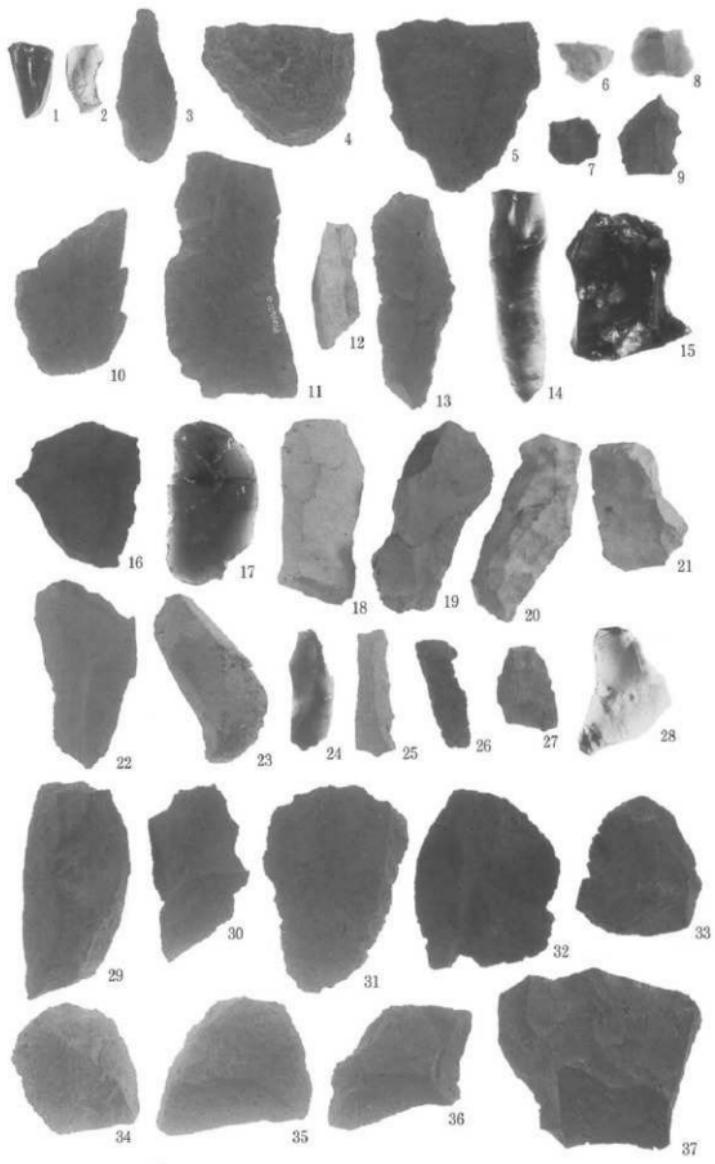
5. 裏ノ山遺跡 剥片（C 2-16）の出土状況



6. 裏ノ山遺跡 剥片（図番号3）の出土状況

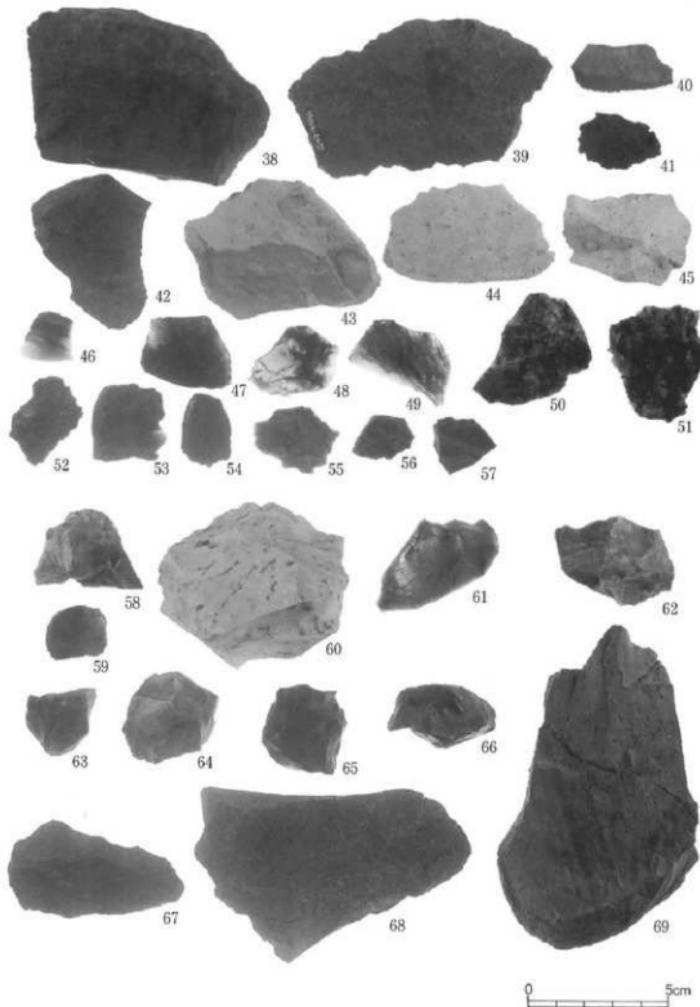


7. 裏ノ山遺跡 剥片（C 2-4）の出土状況

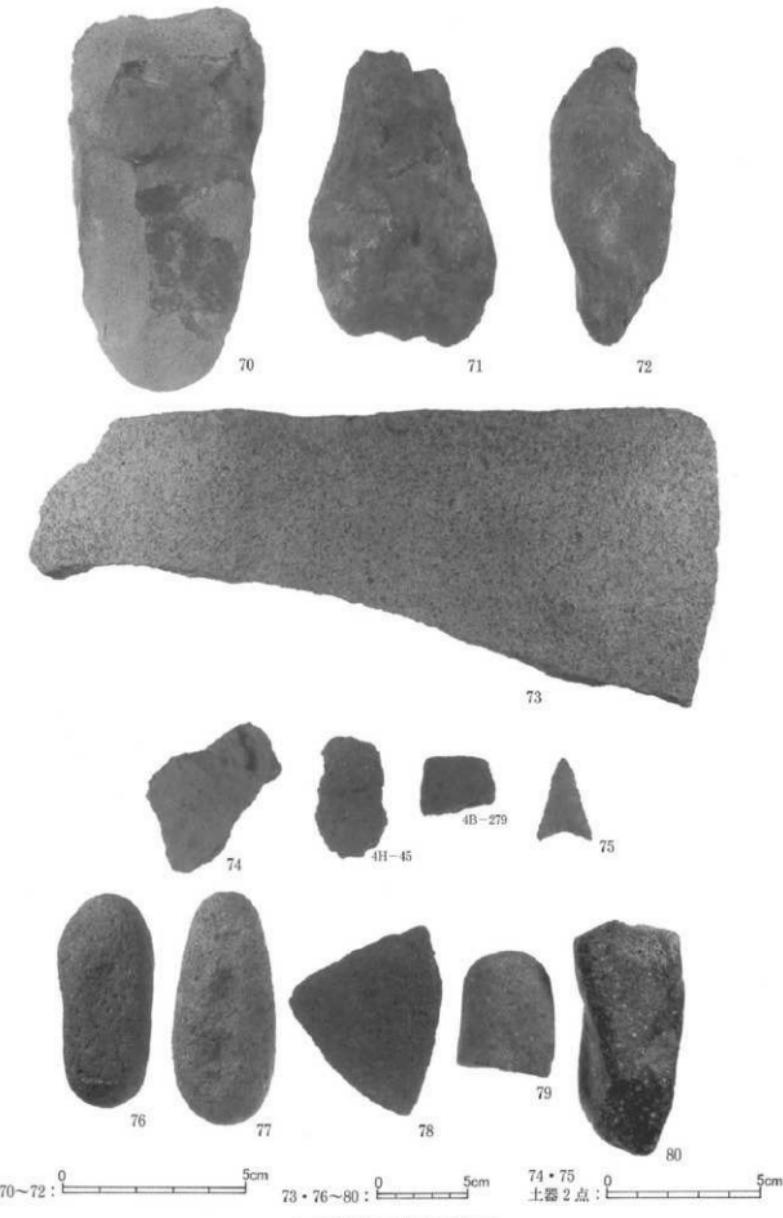


上ノ原遺跡の主な出土遺物(1)

写真図版 7

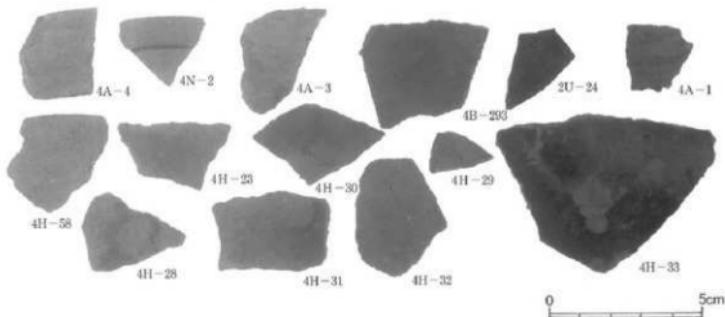


上ノ原遺跡の主な出土遺物(2)

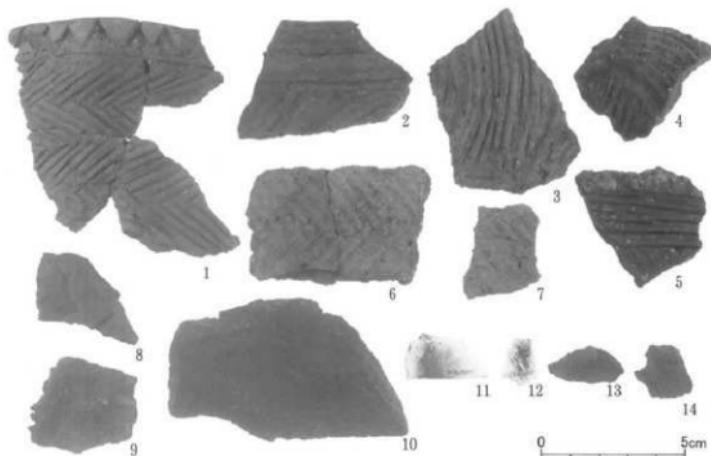


上ノ原遺跡の主な出土遺物(3)

写真図版 9



上ノ原遺跡出土の須恵器・土師器（番号は遺物の注記番号）



東裏遺跡の主な出土遺物



裏ノ山遺跡の主な出土遺物

報告書抄録

書名	上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡						
ふりがな	うえのはらいせき・ひがしらいせき・うらのやまいせき						
発行者名	帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財						
シリーズ番号							
編著者名	渡辺哲也						
編集機関	信濃町教育委員会						
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923						
発行年月日	2007年(平成19年)3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード					
上ノ原	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字岡崎実1,177-10ほか	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	査積面積
		205834	65	36度49分3秒	138度11分55秒	19970621 ~ 19970902	720
東裏	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字裏ノ山409-1ほか	205834	70	36度48分30秒	138度12分32秒	19970519 ~ 19970605	44
裏ノ山	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字裏ノ山525-1ほか	205834	71	36度45分23秒	138度12分44秒	19970506 ~ 19970627	115
所収遺跡名	種別	主な時代	遺構	主な遺物	特記事項		
上ノ原	散布地			出土縦点数595点			
		旧石器時代	なし	ナイフ形石器・搔器・彫器・局部磨製石斧など	局部磨製石斧を含む後期旧石器時代前半期の石器群を検出した。		
		縄文時代早期	なし	縄文土器・石器など			
		平安時代	なし	須恵器・土師器など			
東裏	散布地	縄文時代前中期	なし	縄文土器など 29点			
裏ノ山	散布地	旧石器時代	なし	石器剥片など 21点			

上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡

帝国石油天然ガスパイプライン敷設事業に伴う発掘調査報告書

発行 平成19年(2007)3月31日

発行者 信濃町教育委員会

〒389-1305

長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2

TEL 026-255-5923

印 刷 信濃書籍印刷株式会社

〒381-0037

長野県長野市西和田1-30-3

TEL 026-243-2105

Archaeological Reports of Shinano-machi

Uenohara Site, Higashiura Site, Uranoyama Site

2 0 0 7

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.